
令和元年度第1回岩手県公共事業評価専門委員会

日 時 令和元年6月11日(火) 13:30～16:30

場 所 エスポワールいわて 3階 特別ホール

次 第

1 開 会

2 挨拶

山本専門委員長

3 議 事

(1) 令和元年度専門委員会の開催スケジュール等について

(2) 公共事業の再評価について

- ・ 林道整備事業(森林管理道鷹ノ巣・鰻沢線 葛巻町)
- ・ 地域連携道路整備事業(地域密着型)(一般県道大川松草線 岩泉町)
- ・ 通常砂防事業(二級河川普代川水系 普代村)
- ・ 総合流域防災事業(地すべり)(一級河川北上川水系 八幡平市)
- ・ 都市計画道路整備事業(都市計画道路荒瀬上田面線 二戸市)

(3) 第2回専門委員会(現地調査)について

4 閉 会

岩手県公共事業評価専門委員会委員名簿(五十音順)

| 氏 名 | 職 | 専門分野 | 備 考 |
|---------|---------------------|----------------------------|----------------|
| 石 川 奈 緒 | 岩手大学理工学部 准教授 | 土木環境 | |
| 泉 桂 子 | 岩手県立大学総合政策学部 准教授 | 森林経理学 地域活性化論 現代農村社会論 | 副専門委員長 (欠席) |
| 小笠原 敏 記 | 岩手大学理工学部 准教授 | 海岸工学 | |
| 清 水 真 弘 | 堤研一事務所 公認会計士・税理士 | 企業会計 | |
| 平 井 寛 | 山梨大学生命環境学部 准教授 | 地域計画 | |
| 山 本 清 仁 | 岩手大学農学部 准教授 | 施設機能工学 | 専門委員長 |

(敬称略)

令和元年度第1回公共事業評価専門委員会

配付資料一覧

(1) 令和元年度専門委員会の開催スケジュール等について

- 資料 No. 1 令和元年度公共事業評価専門委員会開催スケジュール等 (案)

(2) 公共事業の再評価について

- 資料 No. 2 諮問書 (令和元年度公共事業再評価について) の写し
- 資料 No. 3 令和元年度公共事業再評価地区位置図
- 資料 No. 4 令和元年度公共事業再評価調書
 - ・林道整備事業 (森林管理道鷹ノ巣・鰻沢線 葛巻町)
 - ・地域連携道路整備事業 (地域密着型) (一般県道大川松草線 岩泉町)
 - ・通常砂防事業 (二級河川普代川水系 普代村)
 - ・総合流域防災事業 (地すべり) (一級河川北上川水系 八幡平市)
 - ・都市計画道路整備事業 (都市計画道路荒瀬上田面線 二戸市)

(3) 第2回専門委員会現地調査について

- 資料 No. 5 令和元年度公共事業評価専門委員会 現地調査行程表 (案)

令和元年度公共事業評価専門委員会開催スケジュール等（案）

1 審議・報告案件

(1) 再評価案件の審議（5地区）

- ・林道整備事業（森林管理道鷹ノ巣・鰻沢線 葛巻町）
- ・地域連携道路整備事業（地域密着型）（一般県道大川松草線 岩泉町）
- ・通常砂防事業（二級河川普代川水系 普代村）
- ・総合流域防災事業（地すべり）（一級河川北上川水系 八幡平市）
- ・都市計画道路整備事業（都市計画道路荒瀬上田面線 二戸市）

(2) 事後評価案件の報告（3地区）

- ・経営体育成基盤整備事業（徳田第二 矢巾町）
- ・漁港整備事業（野田漁港 野田村）
- ・道路環境改善事業（交通安全施設整備）（盛岡環状線 滝沢市）

<参考：東日本大震災津波からの復旧・復興に係る対応の状況を踏まえた対応措置について>

「平成31年度の公共事業評価及び大規模公共事業評価に係る岩手県政策評価委員会に諮問する再評価実施地区の限定等について」（平成31年1月23日付け政推第283号）

1 委員会に諮問する再評価実施地区の限定

再評価を実施した地区のうち、再評価要件の「着手から10年度内に完成見込みなし」又は「前回再評価から5年度内に完成見込みなし」に該当する事業地区であって、平成30年度末時点の進捗率が概ね90%以上又は当該地区より総事業費が大きい再評価地区が同一年度に委員会に諮問されること、かつ、再評価の中項目評価に「c」がないものについては諮問の対象外とする。

（「c」の例）

- ・事業計画に大幅な変更がある事業、
- ・事業のあり方の議論・見直しの検討があるもの、
- ・ $B/C < 1$ の事業、
- ・休止事業において事業実施の課題解決が難しく見通しが立たない事業 など

2 事後評価実施地区数の変更

公共事業及び大規模公共事業の事後評価実施地区数について、平成31年度は4地区とする。

2 専門委員会のスケジュール

| | 開催日時 | 開催場所 | 主な内容(予定) |
|----------|-------------------------|----------------------|------------------------|
| 第1回専門委員会 | 6月11日(火) 13:30~16:30 | エスポワールいわて 3階特別ホール | 諮問・審議 現地調査箇所の 選定 |
| 第2回専門委員会 | 7月8日(月) 9:00~17:00 | 現地 | 現地調査 |
| 第3回専門委員会 | 8月6日(火) 9:30~12:00 | 岩手県庁 12階特別会議室 | 審議・報告 |
| 第4回専門委員会 | 9月11日(水) 13:30~16:30 | エスポワールいわて 3階特別ホール | 審議・報告 答申案の審議 |
| (予備日) | 10月中旬別途調整 予定 | 別途調整予定 | |
| 第5回専門委員会 | 2月上旬別途調整予 定 | 別途調整予定 | 次年度の予定等 |

※審議状況等により、開催回数、開催時期が変更になる場合があります。

諮問書（令和元年度公共事業再評価について）の写し

○岩手県知事からの諮問書の写し

- 公共事業に係る再評価＜諮問審議＞
 - ・ 林道整備事業（森林管理道鷹ノ巣・鰻沢線 葛巻町）
 - ・ 地域連携道路整備事業（地域密着型）（一般県道大川松草線 岩泉町）
 - ・ 通常砂防事業（二級河川普代川水系 普代村）
 - ・ 総合流域防災事業（地すべり）（一級河川北上川水系 八幡平市）
 - ・ 都市計画道路整備事業（都市計画道路荒瀬上田面線 二戸市）

以上5案件



令和元年6月6日

岩手県政策評価委員会公共事業評価専門委員会

専門委員長 山本 清仁 様

岩手県政策評価委員会

委員長 加藤 徹



令和元年度公共事業再評価に係る諮問について

政策等の評価に関する条例（平成15年岩手県条例第60号）第10条第1項の規定に基づき、別添のとおり岩手県知事から公共事業に係る再評価について諮問がありましたので通知します。



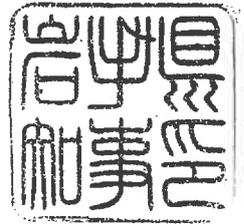
政 推 第 23 号

令 和 元 年 6 月 6 日

岩手県政策評価委員会

委員長 加 藤 徹 様

岩手県知事 達 増 拓 也



令和元年度公共事業再評価について（諮問）

政策等の評価に関する条例（平成15年岩手県条例第60号）第10条第1項の規定に基づき、別紙の公共事業に係る再評価について意見を聴きたいので、再評価調書を付して諮問します。

(別紙)

令和元年度公共事業再評価対象事業一覧表

担当部局名：農林水産部

| 課名 | 事業名 | 地区数 | ①未着工 | ②再評価 | ③再々評価 | ⑤随時評価 | ⑥国指針による評価 |
|-------|--------|-----|------|------|-------|-------|-----------|
| 森林保全課 | 林道整備事業 | 1 | | 1 | | | |
| 合計 | | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |

担当部局名：県土整備部

| 課名 | 事業名 | 地区数 | ①未着工 | ②再評価 | ③再々評価 | ⑤随時評価 | ⑥国指針による再評価 |
|-------|-------------------|-----|------|------|-------|-------|------------|
| 道路建設課 | 地域連携道路整備事業(地域密着型) | 1 | | 1 | | | |
| 砂防災害課 | 通常砂防事業 | 1 | 1 | | | | |
| 砂防災害課 | 総合流域防災事業(地すべり) | 1 | | 1 | | | |
| 都市計画課 | 都市計画道路整備事業 | 1 | | 1 | | | |
| 合計 | | 4 | 1 | 3 | 0 | 0 | 0 |

| | | | | | | | |
|-----|--|---|---|---|---|---|---|
| 総合計 | | 5 | 1 | 4 | 0 | 0 | 0 |
|-----|--|---|---|---|---|---|---|

※再評価要件：

- ① 事業に着手した年度から起算して5年度内に未着工の事業
- ② 事業に着手した年度から起算して10年度内に完了が見込まれない事業（再評価を行う翌年度内に完了が見込まれるものは除く。）
- ③ 再評価を行った年度の翌年度から起算して5年度又は10年度内に完了する見込みがない事業（再評価を行う翌年度内に完了が見込まれるものは除く。）
- ④ 事業の準備又は実施計画に係る調査に要する費用が予算に計上された年度から起算して5年度内に事業に着手する見込みがない事業（地域高規格道路及びダム事業に限る）
- ⑤ 社会経済情勢の急激な変化、事業計画の重要な変更等により、再評価を実施する必要があると判断した事業（随時再評価）
- ⑥ 国の補助に係る事業の評価に関して国から別に指針等が示された場合で、当該指針等に従って評価を実施する必要があると判断した事業（随時再評価）

公共事業 再評価箇所一覧表

農林水産部

| 番号 | 課名 | 事業名 | 路線名等 | 箇所名 | 事業計画 | | 再評価結果 | | | | | 再評価の要件 | | | | | | |
|----|-------|--------|---------|-----|------|--------|--------------|-------|---------------|------|------|--------|------|-----------------|---|---|------|---|
| | | | | | 着手年度 | 完了予定年度 | 進捗状況 | 計画変更 | (2)社会経済情勢 | 社会経済 | 評価指標 | | 自然環境 | 総合評価 (対応方針案) | | | | |
| 1 | 森林保全課 | 林道整備事業 | 鷹ノ巣・鱒沢線 | 葛巻町 | H22 | R14 | 林道 L=11,930m | 3,363 | 総事業費 (百万円) | BB | b | b | A | a | b | a | 事業継続 | ② |

県土整備部

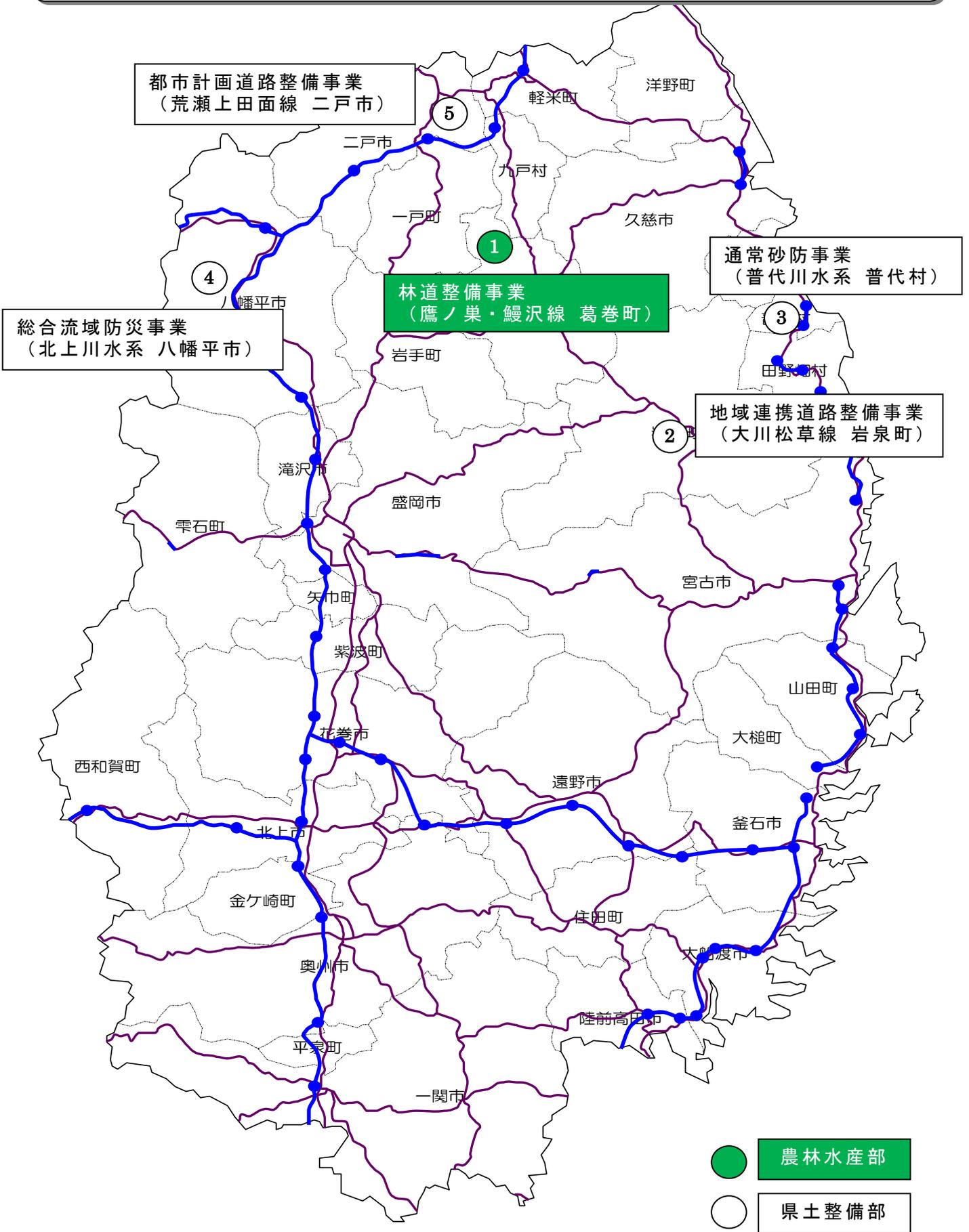
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-------|-------------------|--------------|------------|-----|----|--|-------|---------------|----|---|---|----|---|---|---|------|---|
| 2 | 道路建設課 | 地域連携道路整備事業(地域密着型) | 一般県道大川松草線 | 本町～大広(岩泉町) | H22 | R3 | 延長L=1,300m、幅員W=5.5(8.0)m | 1,020 | 総事業費 (百万円) | BB | b | b | AA | a | a | a | 事業継続 | ② |
| 3 | 砂防災害課 | 通常防犯事業 | 二級河川普代川水系 | 普代の沢(普代村) | H26 | R5 | 砂防堰堤工1基、溪流保全工1式 | 189 | 総事業費 (百万円) | BB | b | b | AA | a | a | a | 事業継続 | ① |
| 4 | 砂防災害課 | 総合流域防犯事業(地すべり) | 一級河川北上川水系 | 八幡平(八幡平市) | H22 | R4 | 集水井6基、抑止杭工1箇所 | 463 | 総事業費 (百万円) | BB | b | b | A | a | b | a | 事業継続 | ② |
| 5 | 都市計画課 | 都市計画道路整備事業 | 都市計画道路荒瀬上田面線 | 岩谷橋(二戸市) | H22 | R3 | 延長L=224m、幅員W=16~19m、橋梁L=106m、改良舗装 L=118m | 2,300 | 総事業費 (百万円) | BB | b | b | A | a | a | b | 事業継続 | ② |

注1) 「再評価結果」欄は、再評価調査による中項目評価、大項目評価及び総合評価の結果を記載すること。

注2) 「再評価の要件」欄は、当該事業が該当する再評価の要件を下記の区分により記載すること。

- ① 事業に着手した年度から起算して5年度内に未着工の事業
- ② 事業に着手した年度から起算して10年度内に完了が見込まれない事業
- ③ 再評価を行った年度の翌年度から起算して5年度又は10年度内に完了する見込みがない事業(再々評価)
- ④ 事業の準備又は実施計画に係る調査に要する費用が予算に計上された年度から起算して5年度内に事業に着手する見込みがない事業(地域高規格道路及びびだま事業に限る)
- ⑤ 社会経済情勢の急激な変化、事業計画の重要な変更等により、再評価を実施する必要があると判断した事業(随時再評価)
- ⑥ 国の補助に係る事業の評価に関して国から別に指針等が示された場合で、当該指針等に従って評価を実施する必要があると判断した事業(随時再評価)

令和元年度公共事業再評価地区 位置図



令和元年度公共事業再評価調書 目次

農林水産部

| 番号 | 課名 | 事業名 | 地区名 | ページ |
|----|-------|--------|-------------------|-------|
| 1 | 森林保全課 | 林道整備事業 | 森林管理道鷹ノ巣・鰻沢線(葛巻町) | 11～15 |

県土整備部

| 番号 | 課名 | 事業名 | 地区名 | ページ |
|----|-------|-----------------------|-------------------|-------|
| 2 | 道路建設課 | 地域連携道路整備事業 (地域密着型) | 一般県道大川松草線(岩泉町) | 17～21 |
| 3 | 砂防災課 | 通常砂防事業 | 二級河川普代川水系(普代村) | 23～29 |
| 4 | 砂防災課 | 総合流域防災事業(地すべり) | 一級河川北上川水系(八幡平市) | 31～37 |
| 5 | 都市計画課 | 都市計画道路整備事業 | 都市計画道路荒瀬上田面線(二戸市) | 39～44 |

公共事業 再評価調書

| 事業名 | 林道整備事業 | | 補助・単独 | 担当部課名 | 農林水産部 森林保全課 | | | | | | | | | | |
|---|--|-------------------------------|------------------|----------------------|---------------|------------------|------------|----------------------------------|-------|------|--------|---------|-----|-------------------------------|-------------------------------|
| 路線名等 | 森林管理道 鷹ノ巣・鰻沢線 | 地区名 | — | | 市町村 | 葛巻町 | | | | | | | | | |
| 〔事業根拠法令等： 森林法第 4 条〕 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業概要 | <p>(1) 事業目的</p> <p>○解決すべき課題や事業目的 森林管理道鷹ノ巣・鰻沢線は、岩手郡葛巻町葛巻第 1 地割字鷹ノ巣地内から同群葛巻町葛巻第 5 地割字元町地内に位置し、起点側を国道340号線、終点側を国道281号線に連絡して事業実施している。 当路線の利用区域内の森林は、主伐期を迎えた立木が半数以上を占めているものの、林内路網の整備が遅れており、森林整備の推進に支障となっている。 本事業は、造林・保育・素材生産等の森林施業の効率化や山村地域の振興を図るとともに、健全な森林を育成するための森林整備の基盤となる林道を整備するものである。</p> <p>○整備によって得られる効果 林内路網の幹線となる林道が整備されることで、木材生産の低コスト化や森林整備の効率化が進み、間伐材等の木材生産量の増加、水源涵養、県土の保全等の森林の多面的機能の持続的な発揮が期待される。</p> | | | | | | | | | | | | | | |
| | <p>(2) 事業内容 全体計画延長11,930m、幅員4.0m (5.0m)、全体事業費3,363,146千円</p> | | | | | | | | | | | | | | |
| | <p>(3) 整備目標等 林内道路密度 (R16末) 19.8m/ha (葛巻町) ※参考 (H30現在) 14.6m/ha (葛巻町)</p> | | | | | | | | | | | | | | |
| | 事業着手 | H22年度 | 事業計画期間 | H22 ~ R14 (当初全体計画期間) | 用地着手 | H23年度 | 工事着手 H24年度 | | | | | | | | |
| 事業費 | 当初計画総事業費 (H22年) (うち用地費) | 再評価時総事業費 (R1年) A (うち用地費) | 事業費の状況 [百万円] | | | | 進捗率 F=E/A | | | | | | | | |
| | 3,540.0 (-) | 3,363.1 (-) | H22~ H29 B | H30 C | R1 D | 投資事業費 E=B+C+D | | 財源 国庫 397.3 県 170.3 他 - | | | | | | | |
| | | | 498.7 (120.8) | 10.9 (-) | 58.0 (8.0) | 567.6 (128.8) | | | 16.9% | | | | | | |
| <p>(1) 事業の進捗状況</p> <p>ア 整備効果の発現状況 全体計画延長約11.9kmのうち、平成30年度末までに約2.4km (進捗率20.2%) が完成し、既に供用開始しており、間伐等の森林整備 (167.3ha) に利用されている。</p> <p>イ 未着工及び工事遅延等の理由並びに解決の見通し</p> <p>①理由 東日本大震災に係る復旧業務に重点化したことによる事業の休工及び平成28年 8 月に発生した台風第10号災害による復旧工事の増加により入札不調が続発したことから、全体計画期間の延長が必要となった。</p> <p>②解決の見通し 早期発注等の発注計画の見直しやコスト縮減に取り組んでおり、今後の計画的な事業進捗により、期間内の竣工が見込まれる。</p> <p>○中項目評価は、震災復旧業務及び災害復旧工事の影響による計画期間の延長が生じたものの、現在の計画期間内の竣工が見込まれることから「b」とした。</p> | | | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>中項目評価</td> <td>a .</td> <td style="border: 2px solid black;">b</td> <td>. c</td> </tr> </table> | | | | | | | 中項目評価 | a . | b | . c | | | | | |
| 中項目評価 | a . | b | . c | | | | | | | | | | | | |
| <p>(2) 事業計画の変更の有無及び内容</p> <p>①変更内容</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>項目</th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> <tr> <td>計画期間</td> <td>H22~R4</td> <td>H22~R14</td> </tr> <tr> <td>道路工</td> <td>延長 L=11,500m 総事業費 3,540,000千円</td> <td>延長 L=11,930m 総事業費 3,363,146千円</td> </tr> </table> <p>②「b」と判断した理由 ○中項目評価は、上記(1)イ①の理由のほか、希少野生植物の対応によりルートを微修正 (20~30m) したことであり、大幅な変更ではないため「b」とした。</p> | | | | | | | 項目 | 変更前 | 変更後 | 計画期間 | H22~R4 | H22~R14 | 道路工 | 延長 L=11,500m 総事業費 3,540,000千円 | 延長 L=11,930m 総事業費 3,363,146千円 |
| 項目 | 変更前 | 変更後 | | | | | | | | | | | | | |
| 計画期間 | H22~R4 | H22~R14 | | | | | | | | | | | | | |
| 道路工 | 延長 L=11,500m 総事業費 3,540,000千円 | 延長 L=11,930m 総事業費 3,363,146千円 | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>中項目評価</td> <td>a .</td> <td style="border: 2px solid black;">b</td> <td>. c</td> </tr> </table> | | | | | | | 中項目評価 | a . | b | . c | | | | | |
| 中項目評価 | a . | b | . c | | | | | | | | | | | | |
| <p>○中項目評価が「b」、 「b」で構成されていることから大項目評価は「BB」とした。</p> | | | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>評価</td> <td>AA .</td> <td style="border: 2px solid black;">A</td> <td>. BB</td> <td>. B</td> <td>. C</td> </tr> </table> | | | | | | | 評価 | AA . | A | . BB | . B | . C | | | |
| 評価 | AA . | A | . BB | . B | . C | | | | | | | | | | |

(1) 事業に関する社会経済情勢

ア 全国の状況

平成28年に、国は、本格的な利用期を迎えた森林資源の循環利用による林業の成長産業化、原木の安定供給体制の構築等に向け「森林・林業基本計画」を変更した。

この中で、林産物の供給及び利用に関しては「平成37年における国産材の供給量40万m³」を目標に掲げており、効率的な生産基盤を確立するため、引き続き林道等の林内路網整備を推進することとしている。

イ 本県の状況

・平成27年に国が示した「路網整備水準の目安」においては、中傾斜地（15～30度）の林道等の林内道路密度は、25～40m/haとされているが、本県は16.6m/ha（H29末）であり、水準への到達に向け、路網整備の推進が必要となっている。

こうした中、本県においては、計画的な林道整備を推進するため、実効性の高い中期的なアクションプランとして、「林道整備事業中期実施計画」を策定し、現在、令和元年度を始期とした第4期計画に基づき、事業を実施している路線の早期完成等の取組を進めている。

・東日本大震災津波で被災した沿岸部の合板工場に替わり内陸部に整備された工場の操業開始や、県内各地で木質バイオマス発電施設の整備が進み、木材需要が増大していることから、木材の安定供給に向け、間伐材等木材生産の基盤となる林道等の林内路網の整備が急務となっている。

ウ 施工地域における状況

・本路線の利用区域においては、計画当初からの年数の経過により、人工林のうち森林整備が必要とされる45年生以下の林分が約25.4%（220.6ha）となっている一方、46年生以上の成熟した林分の面積の割合が増加しており、木材生産等に向けた林道等の整備が急務となっている。

・利用区域内の人工林におけるカラマツの占有率は半数を占めており、終点側に集成材工場が立地していることなど、森林資源を有効に利用できる条件が整っている。

○中項目評価は、全国又は県内において、林道事業に係る政策や事業のあり方についての議論や見直しの検討がないため「a」とした。

中項目評価 a . b . c

(2) 事業に関する評価指標の推移

| 評価指標 | | 配点 | 事業着手時 評点(A) | 再評価時 評点(B) | 増減 (B)-(A) | 備考 |
|------|------------|-----|-----------------|-----------------|---------------|--------------------|
| 必要性 | 林業効果指数 | 5 | 5 4.64 | 5 5.90 | 0 | |
| | 利用区域森林面積 | 5 | 5 921ha | 5 921ha | 0 | |
| | 定住環境 | 5 | 5 3項目 | 5 3項目 | 0 | |
| | 要整備森林の占有度 | 10 | 6 29% | 6 25% | 0 | |
| | 地域振興 | 5 | 5 2地区 | 5 2地区 | 0 | 過疎地域 振興山村 |
| 重要性 | 林内路網密度 | 5 | 5 7m/ha | 5 7m/ha | 0 | |
| | 基幹的路線 | 5 | 4 連絡線形(基幹道路) | 4 連絡線形(基幹道路) | 0 | |
| | 作業道の整備状況 | 5 | 0 計画なし | 0 計画なし | 0 | |
| | 山地保全 | 5 | 5 0% | 5 0% | 0 | |
| 緊急性 | 防災対策 | 5 | 5 2項目以上 | 5 2項目以上 | 0 | |
| | 利用計画 | 5 | 5 2項目以上 | 5 2項目以上 | 0 | |
| 効率性 | 費用便益比(B/C) | 30 | 15 1.22 | 5 1.08 | -10 | 総費用の増により 減少したもの |
| 熟度 | 地元の協力体制 | 10 | 5 良い | 5 良い | 0 | |
| 計 | | 100 | 70 | 60 | -10 | (再評価時/採択時) 86% |

○ 費用便益分析

費用便益分析手法： 林野公共事業における事業評価マニュアル (H30.5 林野庁) (単位：百万円)

| 区 分 | | 事業着手時 (基準年：H21) | 再評価時 (基準年：R1) |
|-------------|------------|--------------------|------------------|
| 費用項目 | 全体事業費 | 3,540.0 | 3,972.1 |
| | ※維持管理費等含む | | |
| | 社会的割引率調整 | ▲ 1,041 | ▲ 851.9 |
| | | | |
| | 総 費 用 (C) | 2,499.0 | 3,120.2 |
| 便 益 項 目 | 林業生産便益 | 1,355.0 | 1,740.7 |
| | 森林整備経費縮減便益 | 1,137.0 | 660.0 |
| | 森林の総合利用便益 | 58.0 | - |
| | 災害等縮減便益 | 421.0 | 912.9 |
| | その他の便益 | 78.0 | 49.3 |
| 総 便 益 (B) | 3,049.0 | 3,362.9 | |
| 費用便益比 (B/C) | | 1.22 | 1.08 |

社
会
経
済
情
勢
等
の
変
化

※費用便益分析において地域特性等考慮すべき特記事項

林野庁は、平成28年5月に費用対効果分析手法を改正した。

これを受け、再評価時には改正後の「林野公共事業における事業評価マニュアル」により費用便益比を算出している。

○中項目評価は、各評価指標の評点の合計が事業着手時の80%以上90%未満であることから「b」とした。

○ 関連する開発プロジェクト等の状況

特になし

| | | | |
|-------|-----|------------|---|
| 中項目評価 | a . | b . | c |
|-------|-----|------------|---|

(3) 自然環境等の状況及び環境配慮事項

ア 動植物、地形・地質、歴史文化、景観等の状況及び岩手県自然環境保全指針による保全区分

- ・岩手県自然環境保全指針による保全区分 **C**
- ・希少野生動植物生息の有無

| |
|----|
| あり |
|----|
- ・埋蔵文化財包蔵地の有無

| |
|----|
| なし |
|----|
- ・その他特記事項

イ 環境配慮事項及び環境等への配慮に要する事業費

- ・振興局公共事業等に係る希少野生動植物調査検討委員会への付議状況 付議している

① 主な助言内容

事業計画区域内に希少植物が生息しているため、配慮が必要であると助言があった。

② 対応状況

工事の影響等を調べるため、専門委員と現地調査を実施した。

③ 対応結果

調査の結果、希少種の密生地が林道敷と重複していることが判明した。希少種の生態系より移植は困難であることからルートを変更することで対応した。(変更内容は線形を数十mずらす軽微なもの)

◀環境等への配慮に要する経費▶

- ・間伐材を使用した木製構造物を施工 (8,507千円)
- ・再生砕石を使用 (32,135千円)

○中項目評価は、自然環境保全指針の「優れた自然」の保全区分毎の保全方向に沿って積極的な対応をしていることから「a」とした。

| | | | |
|-------|------------|-----|---|
| 中項目評価 | a . | b . | c |
|-------|------------|-----|---|

○中項目評価が「a」「b」「a」で構成されていることから、大項目評価については「A」とした。

| | | | | |
|-----|------|------------|-----|---|
| 評 価 | AA . | A . | B . | C |
|-----|------|------------|-----|---|

コスト削減対策及び代替案立案の可能性

(1) コスト削減対策の実施状況及び今後の可能性

- ・再生資源の活用による削減額 2,483千円(路盤工において再生砕石を使用)

(2) 代替案立案の可能性

- ①代替案として考えられる他の事業手法・工法の比較検討結果
線形について、地形に追従した線形とすることで切土・盛土量の軽減を図り、事業の開設コスト等について比較検討し、現計画としたものである。
- ②今後における代替案立案の可能性
現計画は森林整備を実施する区域を通過する線形であることに加え、本路線を幹線とした効率的な路網の形成が可能なことから、事業効果がより高い代替案の可能性はない。

(1) 総合評価

| | | | |
|--------------------|---|-----|----|
| 総合評価 (対応方針案) | <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">事業継続</div> | 要検討 | 中止 |
| (事業継続、見直し継続、休止、中止) | | | |

(事業名) 林道整備事業 鷹ノ巣・鰻沢線

| 着手年度 | 完了予定年度 | 事業費 (百万円) | 投資 事業費 (百万円) | 進捗率 (%) | (1) 事業進捗状況 | | (2) 社会経済情勢 | | | 参考 | | | |
|------|--------|--------------|--------------------|------------|------------|------|------------|------|------|----|-----|----|------|
| | | | | | 進捗状況 | 計画変更 | 社会経済 | 評価指標 | 自然環境 | 評点 | B/C | | |
| H22 | R14 | 3,363 | 567.6 | 16.9% | BB | b | b | A | a | b | a | 60 | 1.08 |

○総合評価に係るコメント

①再評価の総括

「事業の進捗状況等」については、「工事の遅延等」はあるものの「事業計画の大幅な変更」がなく、今後も計画的に進捗が見込まれる状況であること、また、「社会経済情勢等の変化」については、効率的かつ安定的な林業生産活動を実現するための生産基盤として林道の必要性が高まっていることに加え、「評価指標」、「自然環境等の状況」に関して特に大きな変化が見られないことから「事業継続」と評価したものである。

- 大項目評価がそれぞれ「BB」と「A」であることから、総合評価は「事業継続」とした。

②特記事項

なし

(2) 要検討、中止の場合の対応

総合評価

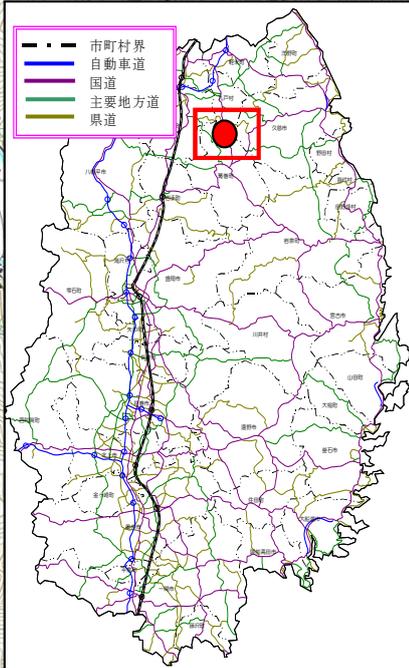
※評価対象事業の位置図、計画平面図、標準横断図等を添付のこと。

林道整備事業 鷹ノ巣・鰻沢線 実施状況図 (1:50,000)

全体計画延長 L=11,930m

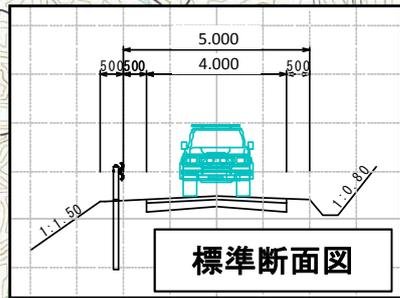
国道340号

国道281号



| 凡 例 | |
|-----|-------|
| | 計画区間 |
| | 実施済区間 |
| | 既設区間 |
| | 利用区域 |
| | 保安林 |
| | 国有林 |
| | 官行造林 |
| | 経過道路 |

| 全 体 計 画 | |
|---------|-------------|
| 事業期間 | H22~R14 |
| 事業費 | 3,363,146千円 |
| 全体延長 | L=11,930m |
| 幅員 | W=5.0m |
| 利用区域 | A=921ha |



1:50000

「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用した。(承認番号 平22業使、第214-2651号)」

| | | | | | |
|--|---|----------------------------|----------------------|-----------------------|-------------|
| 事業名 | 地域連携道路整備事業 (地域密着型) | 補助・単独 | 担当部課名 | 県土整備部道路建設課 | |
| 路線名等 | いっばんけんどう 一般県道 | おおかわまつげせん 大川松草線 | 地区名 | もともち おおひろい 本町～大広 | |
| | | | 市町村 | 岩泉町 | |
| 事業概要 | 〔事業根拠法令等： 道路法第15条、第56条〕 | | | | |
| | (1) 事業目的 | | | | |
| | ○解決すべき課題 ・一般県道大川松草線は、岩泉町大川の国道340号と宮古市門馬田代の国道106号を結ぶ生活道路であるが、当該区間は幅員狭小、線形不良の隘路区間となっているため、車両のすれ違いが困難であり、安全で円滑な交通の支障となっている。 | | | | |
| | ○整備によって得られる効果 ・隘路区間の解消により、安全で円滑な交通機能が確保される。 | | | | |
| (2) 事業内容 | | | | | |
| ・計画延長：L=1,300m 計画幅員：W=5.5 (8.0) m | | | | | |
| (3) 整備目標等 | | | | | |
| ・隘路区間の解消：1,300m | | | | | |
| 事業着手 | H22年度 | 事業計画期 | H22 ~ H27 (当初全体計画期間) | R3 (再評価時全体計画期間) | |
| | | | | 用地着手 H23年度 工事着手 H26年度 | |
| 事業費 | 当初計画総事業費 (H22年) (うち用地費) | 再評価時総事業費 (R1年)A (うち用地費) | 事業費の状況 [百万円] | | |
| | | | B H22年～H29年 | C H30年 | D R1年 |
| | | | 投資事業費 E=B+C+D | | 進捗率 F=E/A |
| | 500.0 (50.0) | 1,020.0 (28.7) | 440.2 (23.7) | 6.0 (0.0) | 213.8 (5.0) |
| | | | 財源 | | |
| | | | 国庫 | | 372.7 |
| | | | 県単 | | 287.3 |
| | | | | | 64.7% |
| 事業の進捗状況等 | (1) 事業の進捗状況 | | | | |
| | ア 整備効果の発現状況 | | | | |
| | ・現時点で計画延長1,300mのうち560mの整備が完了しており、通行の安全性・快適性が向上している。 | | | | |
| | イ 未着工及び工事遅延等の理由並びに解決の見通し | | | | |
| 【事業期間】 | | | | | |
| ・平成28年度に発生した台風10号災害の影響や、公共事業費の縮減による年次事業計画の見直しに伴い、当初評価時より6年延伸が必要となった。 | | | | | |
| 現在の進捗率は64.7%となっている。 | | | | | |
| ○中項目評価は、完了年度が当初評価時より6年遅延となるものの、今後は計画に基づき事業進捗が見込めることから「b」とした。 | | | | | |
| 中項目評価 a . (b) . c | | | | | |
| (2) 事業計画の変更の有無及び内容 | | | | | |
| ①変更内容 事業期間の変更 (変更前)H22～H27 (変更後)H22～R3 | | | | | |
| ②「b」と判断した理由 | | | | | |
| ○中項目評価は、変更内容は施工区間や主要な工事内容の変更ではなく、法面対策に関する軽微な変更であり、大幅な変更ではないため「b」とした。 | | | | | |
| 項目 | 変更前 | 変更後 | 増減 | | |
| 事業内容 | 延長 L=1,300m | 延長 L=1,300m | なし | | |
| 事業費 | 500百万円 | 1,020百万円 | 520百万円 | | |
| 増額の内訳 | | | | | |
| 社会的要因によるもの | 物価上昇等、消費税増税 | | 350百万円 | | |
| 工事内容の変更 | 法面対策工の追加 | | 170百万円 | | |
| | 計 | | 520百万円 | | |
| 中項目評価 a . (b) . c | | | | | |
| ○中項目評価が「b」、 「b」であることから、大項目評価を「BB」とした。 | | | | | |
| 評価 | AA ・ A ・ (BB) ・ B ・ C | | | | |

| | | | | | | |
|--|--|-----|---------------------------|------------------------|---------------|------------------------|
| 社会 経 済 情 勢 等 の 変 化 | (1) 事業に関する社会経済情勢 | | | | | |
| | ア 全国の状況 | | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災や熊本地震、九州北部豪雨等による「被災地の復旧・復興」、「国民の安全・安心の確保」、「生産性の向上と新需要の創出による成長力の強化」及び「豊かで活力ある地域づくり」の4分野に重点化し、施策効果の早期発現を図ることとしている。 ・近年激甚化している災害により全国で大きな被害が頻発している状況から、平成30年12月に閣議決定された「防災・減災、国土強靱化のための3ヶ年緊急対策」について、集中的に取り組んでいくこととしている。 | | | | | |
| | イ 本県内の状況 | | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・「いわて県民計画」においては、産業を支える社会資本の整備や安全で安心な暮らしを支える社会資本の整備を重点的な政策の柱として掲げており、この中で道路整備は、地域産業の競争力の向上を目指し、工業製品や農林水産物等の物流の円滑化を図る幹線道路ネットワークを構築することや、地域間の交流・連携の基盤となる広域振興圏相互や隣接県を結ぶ道路の整備を推進するとともに、通院・通学などの日常生活を支える道づくりを進めることとしている。 | | | | | |
| | ウ 施工地域における状況 | | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・当該地区の道路整備について岩泉町より要望がある。 | | | | | |
| | ○中項目評価は、全国又は本県において、政策や事業のあり方についての議論や見直しの大きな変化が見られないことから、「a」とした。 | | | | | |
| | 中項目評価 (a). b. c | | | | | |
| | (2) 事業に関する評価指標の推移 | | | | | |
| | 評価指標 | 配点 | 事業着手時 評点 H21 | 今回再評価時 評点(B) H31 | 増減 (B)-(A) | 備考 |
| 必要性 | 車道等幅員 | 5 | 5 (現況3.8m) | 5 (現況3.8m) | 0 | |
| | 曲線半径 | 5 | 5 (現況30m) | 5 (現況30m) | 0 | |
| | 縦断勾配 | 5 | 3 (現況5.9%) | 3 (現況5.9%) | 0 | |
| | 歩道設置の必要性 | 3 | 0 (該当なし) | 0 (該当なし) | 0 | |
| | 混雑度 | 2 | 0 (1.0未満) | 0 (1.0未満) | 0 | |
| | 定時性 | 2 | 0 (-) | 0 (-) | 0 | |
| | 事故率 | 3 | 0 (履歴無) | 0 (履歴無) | 0 | |
| | 過疎地域等の振興 | 5 | 5 (過疎・山振該当) | 5 (過疎・山振該当) | 0 | |
| | 計 | 30 | 18 | 18 | 0 | |
| 重要性 | ネットワークの 位置付け | 5 | 3 (広振圏主要都市アクセス) | 3 (広振圏主要都市アクセス) | 0 | 広域振興圏内主要都市へのアクセス |
| | 産業振興、 生活支援 | 15 | 15 (4項目該当) | 15 (4項目該当) | 0 | 林業支援、観光支援、公共施設アクセス、通学路 |
| | 計 | 20 | 18 | 18 | 0 | |
| 緊急性 | 関連事業の有無 | 5 | 0 (無) | 0 (無) | 0 | |
| | 冠水対策、主要渋滞箇所、老朽橋、通行危険箇所等 | 5 | 5 (有) | 5 (有) | 0 | 通行危険箇所(車両すれ違い困難) |
| | 部分供用の有無 | 2 | 2 (有) | 2 (有) | 0 | |
| | 10Km以内に迂回道路 | 3 | 3 (無) | 3 (無) | 0 | |
| | 計 | 15 | 10 | 10 | 0 | |
| 効率性 | 費用便益比(B/C) | 20 | 15 (1.6) ^{※1} | 7 (0.6) | -8 | |
| 熟度 | 用地取得の 進捗状況 | 3 | 2 (50%) | 3 (83%) | 1 | |
| | 地元要望 | 12 | 12 (あり) | 12 (あり) | 0 | |
| | 計 | 15 | 14 | 15 | | |
| 計 | | 100 | 75 | 68 | -7 | (再評価時/採択時) 91% |

※1 着手時(H21)のB/C=1.6は修正便益であり、今回(H31)のB/C=0.6は3便益による。

○ 費用便益分析

費用便益分析手法:費用便益分析マニュアル (H30年2月)
 道路投資の評価に関する指針 (案) 第1編 (H10年6月)、第2編 (H11年11月)

基準年:R1年度 (単位:百万円)

| 区 分 | | 事業着手時 (基準年: H21) | 再評価時 (基準年: R1) | | |
|------------------------|---------|---------------------|-------------------|-------|--|
| 費用項目 | 改築費 | 407.0 | 1,068.0 | | |
| | 維持費 | 57.0 | 66.4 | | |
| | 総費用 (C) | 464.0 | 1,134.4 | | |
| 便益項目 | 3便益 | 時間短縮便益 | 302.0 | 334.8 | |
| | | 走行経費減少便益 | 18.0 | 13.2 | |
| | | 事故減少便益 | 0.0 | 17.6 | |
| | | ① | 320.0 | 365.6 | |
| | その他便益 | 環境改善便益 | -4.0 | -5.3 | |
| | | 拡張便益 | 143.0 | 318.9 | |
| | | ② | 139.0 | 313.6 | |
| | | 小計(①+②) | 459.0 | 679.2 | |
| | | 修正便益 | 282.0 | 417.7 | |
| | | ③ | 282.0 | 417.7 | |
| | 総便益 | 741.0 | 1,096.9 | | |
| | ①+②+③ | 741.0 | 1,096.9 | | |
| 費用便益比 (B/C) B(①+②)*C | | 1.0 | 0.6 | | |
| (参考)修正費用便益比 B(①+②+③)*C | | 1.6 | 1.0 | | |

参考 将来交通量 503台/日(R12) 498台/日(R12)

※費用便益分析において地域特性等考慮すべき特記事項

・総合評価では、効率性の他、地域格差(公平性)を加味した修正費用便益比(修正B/C)についても考慮する。

○ 関連する開発プロジェクト等の状況

・特になし

○各評価指標の評点の合計が、事業着手時の90%以上であることから、中項目評価を「a」とした。

中項目評価 (a) . b . c

(3) 自然環境等の状況及び環境配慮事項

ア 動植物、地形・地質、歴史文化、景観等の状況及び岩手県自然環境保全指針による保全区分

- ・岩手県自然環境保全指針による保全区分
- ・希少野生動植物生息の有無
- ・埋蔵文化財包蔵地の有無

イ 環境配慮事項及び環境等への配慮に要する事業費

- ・振興局公共事業等に係る希少野生動植物調査検討委員会への付議状況 : 付議している
- ・対応状況
 - ・いわてレッドデータブック掲載の動植物について、移植・移動するよう委員会から意見を受けており、対象個所については工事着手前までに移植・移動する予定である。
 - ・今後においても必要に応じて有識者への聴き取りや現地調査を行い、慎重に事業を実施する。

《環境等への配慮に要する経費》

- ・切土・盛土の植生緑化 22,735千円
- ・再生アスファルト合材や再生砕石の使用 47,335千円
- ・防護柵にガードパイプを使用 13,235千円
- ・合計 83,305千円

○中項目評価は、自然環境保全指針の「優れた自然」の保全区分毎の保全区分に沿って積極的な対応をしていることから「a」とした。

中項目評価 (a) . b . c

○中項目評価が「a」、「a」、「a」であることから、大項目評価を「AA」とした。

評 価 (AA) . A . B . C

社
会
経
済
情
勢
等
の
変
化

コスト削減対策及び代替案立案の可能性

(1) コスト削減対策の実施状況及び今後の可能性

- 再生アスファルト合材や再生砕石の使用 2,985千円 …②-①
 - ①再生材を使用した場合（今後の施工含む） 47,335千円
 - ②再生材を使用しない場合（〃） 50,320千円

(2) 代替案立案の可能性

①代替案として考えられる他の事業手法・工法の比較検討結果

- 全体延長1,300mのうち560mが完了していること、埋蔵文化財、河川区域等のコントロールポイントがあることから、ルートは限定される。本ルートが最適ルートである。

②今後における代替案立案の可能性

- 現時点で予想される今後の変化はないため、代替案立案の可能性はない。

(1) 総合評価

| | |
|-------|---|
| 対応方針案 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 事業継続 </div> ・ 要 検 討 ・ 中 止 <small>(事業継続、見直し継続、休止、中止)</small> |
|-------|---|

(事業名) 地域連携道路整備事業（地域密着型） 本町～大広

| 着手年度 | 完了予定年度 | 事業費 (百万円) | 投資事業費 (百万円) | 進捗率 (%) | (1) 事業進捗状況 | | | (2) 社会経済情勢 | | | 参考 | | |
|------|--------|--------------|----------------|------------|------------|------|---|------------|------|------|----|-----|-----|
| | | | | | 進捗状況 | 計画変更 | | 社会経済 | 評価指標 | 自然環境 | 評点 | B/C | |
| H22 | R3 | 1,020 | 660 | 64.7% | BB | b | b | AA | a | a | a | 68 | 0.6 |

(修正B/C=1.0)

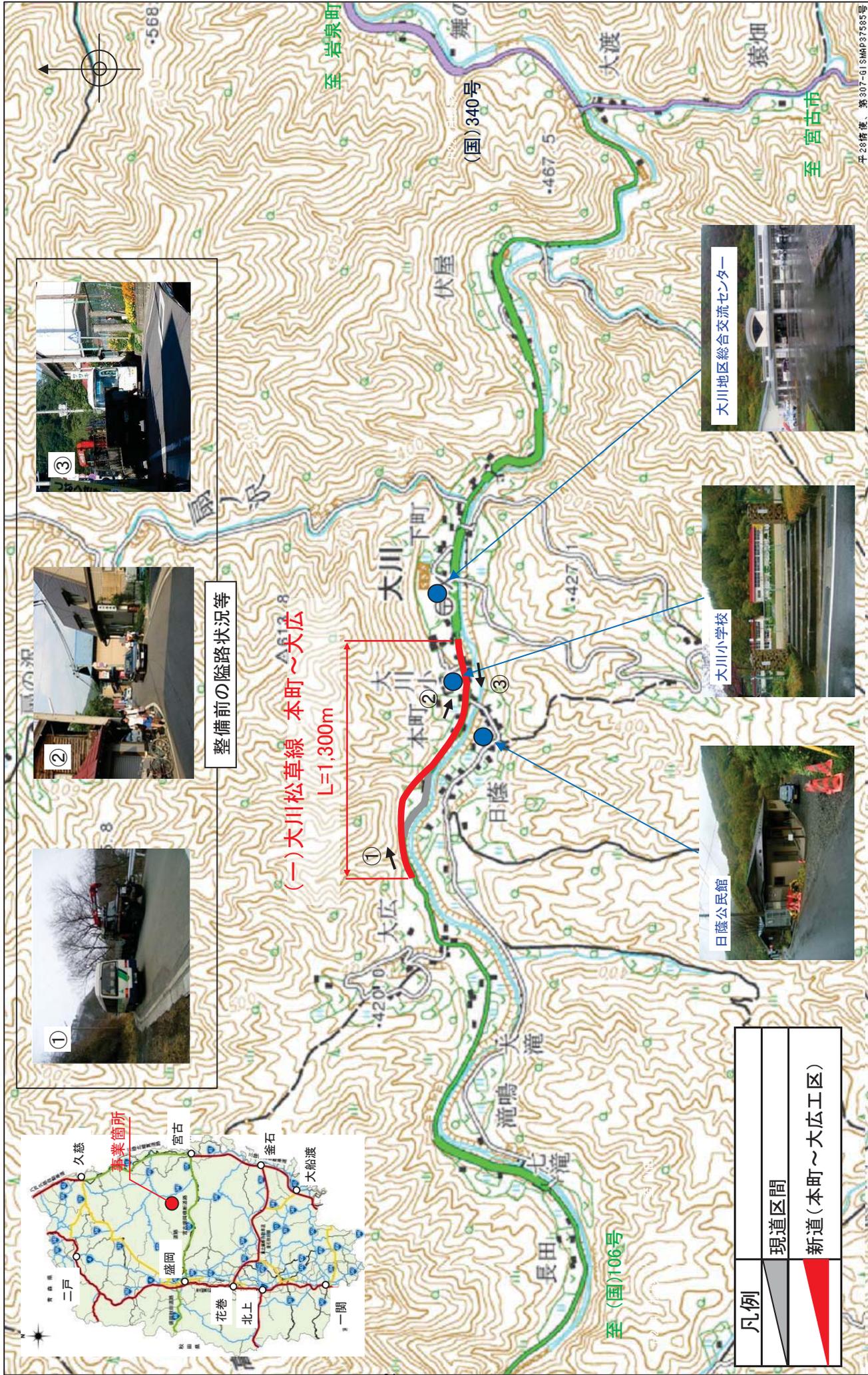
○総合評価に係るコメント

- 「事業の進捗状況等」については、事業期間は延伸となったが、事業計画に大幅な変更はなく、事業も全体延長1,300mのうち560mについて供用済であり、順調に進捗している状況である。
- 「社会経済情勢等の変化」については、事業に関する社会経済情勢、評価指標、自然環境等の状況に関して特に大きな変化は見られない状況である。
- B/Cが0.6であるものの、当該路線は、地域の産業(林業)や観光を支援する路線であるとともに、(国)106号と(国)340を結ぶ重要な路線であることから、事業を着実に推進させる必要がある。
- 以上のことから「事業継続」と評価したものである。

総合評価

※評価対象事業の位置図、計画平面図、標準横断図等を添付のこと。

地域連携道路整備事業(地域密着型) (一)大川松草線 本町～大広 実施状況図



公共事業 再評価調査

令和元年 5 月 8 日作成

| | | | | | | | | | |
|---|---|-----------------------------------|------------------------------------|-----------------|--------------------------|--------------------|----------------------------|-------------|------------------------|
| 事業名 | 通常砂防事業 | 補助・単独 | 担当部課名 | 県土整備部砂防災課 | | | | | |
| 路線名等 | に きゆかせん ふだいがわすいけい 二級河川普代川水系 | 地区名 | ふだいのさわ 普代の沢 | 市町村 | ふだいむら 普代村 | | | | |
| 事業概要 | 〔事業根拠法令等：砂防法第 7 条〕 | | | | | | | | |
| | <p>(1) 事業目的</p> <p>○解決すべき課題 普代の沢は、二級河川普代川水系の土石流危険溪流であり、平成22年には土砂災害警戒区域に指定されている。 現地は溪岸侵食が進行し、溪床には不安定土砂が堆積している。保全対象には人家21戸、国道45号等があり、豪雨により土石流が発生した際は、甚大な被害発生のおそれがある。</p> <p>○整備によって得られる効果 砂防施設を整備することにより、上記の保全対象への土砂災害を防止することができる。</p> <p>(2) 事業内容 砂防堰堤工 1 基、溪流保全工 1 式</p> <p>(3) 整備目標等 土砂災害の危険が高い箇所において砂防事業等を実施する。</p> | | | | | | | | |
| | 事業着手 | H26 | 事業計画期間 | H26 ~ R5 H30 | 再評価時全体計画期間 (当初全体計画期間) | 用地着手 | R1 | 工事着手 | R2 |
| | 事業費 | 当初計画 総事業費 (H26年) (うち用地費) | 再評価時 総事業費 (R1年) A (うち用地費) | 事業費の状況 [百万円] | | | | | |
| 事業費 | | 事業費 | H26年～ H29年 B | H30年 C | R1年 D | 投資事業費 E = B+C+D | 財 源 | | |
| | | | 101.0 (1.0) | 189.0 (4.0) | 25.0 (—) | 1.0 (—) | 5.0 (—) | 31.0 (—) | 国庫 15.5 県 15.5 他 |
| 事業の進捗状況等 | (1) 事業の進捗状況 | | | | | | | | |
| | ア 整備効果の発現状況 | | | | | | | | |
| | 工事未着手のため、整備効果の発現は無い。 イ 未着工及び工事遅延等の理由並びに解決の見通し ①理由：用地確保が完了していないため未着手となっている。 ②解決までの見通し：村の協力を得ながら用地交渉を進めている。用地交渉においては村長にも出席頂くなど村の協力も得られている。 ③解決に至るまでの対応及び期間：用地交渉において相手方から要求のあった代替地について、土地価格等の詳細を提示し交渉継続中である。なお、代替地の土地所有者からは土地の提供について同意が得られている。 ○中項目評価は、用地確保に時間を要することから工程計画の見直しにより完成年度を5年間延伸したが、今後は計画に基づき事業進捗が見込めることから「b」とした。 | | | | | | | | |
| | 中項目評価 a . b . c | | | | | | | | |
| (2) 事業計画の変更の有無及び内容 | | | | | | | | | |
| ①変更内容 | | | | | | | | | |
| 現地測量及び詳細設計の結果に伴う施設計画の精査による事業費の増額と事業期間の延伸(5年間) | | | | | | | | | |
| | | | | | 変更前 | | 変更後 | | |
| | | 堰堤工 | 1基 | 70百万円 | 堰堤工 | 1基 | 142百万円 | | |
| | | 溪流保全工 | 35m | 3百万円 | 溪流保全工 | 50m | 17百万円 | | |
| ②「b」と判断した理由 | | | | | | | | | |
| ○中項目評価は、施工区間に変更がないが、工事内容に変更があることから「b」とした。 | | | | | | | | | |
| ○中項目評価がいずれも「b」であることから、大項目評価は「BB」とした | | | | | | | | | |
| | | | | | 中項目評価 | | a . b . c | | |
| | | | | | 評 価 | | AA . A . BB . B . C | | |

(1) 事業に関する社会経済情勢

ア 全国の状況

平成23年3月11日の東日本大震災津波、平成26年8月の広島市を襲った前線による豪雨、平成27年9月の鬼怒川の氾濫を代表とする関東・東北豪雨、平成29年7月の九州北部豪雨、平成30年7月の西日本豪雨等に見られるように、自然災害によって尊い人命や家屋等の財産が甚大な被害を受けている。このようなことから、着実にハード整備を進めるとともに、土砂災害警戒区域等の指定や洪水・土砂災害ハザードマップの作成等ソフト対策の充実などにより、地域全体の防災意識の構築を図っていく。

イ 本県内の状況

平成28年8月の台風10号等より安家川、小本川（岩泉町）等の洪水など、各地で大規模な浸水、土石流、がけ崩れ被害が発生していることから、防災事業に対する関心が高まっており、効果的な事業の推進に努める必要がある。

土砂災害対策施設整備を着実に進めるとともに、土砂災害警戒区域等の指定、市町村による防災マップの策定及び公表など、ハード・ソフト対策を組み合わせた効果的な事業の推進に努めている。

ウ 施工地域における状況

当該溪流の保全対象となっている国道45号は、沿岸部を縦断する重要交通路線であり、土石流による被災時には、甚大な被害を被る可能性が高いことから、砂防施設を整備し、人家のみならず公共施設の被災を未然に防ぐ必要がある。

○中項目評価は、全国又は本県において、政策や事業のあり方についての議論や見直しの検討がないことから「a」とした。

中項目評価 (a) . b . c

(2) 事業に関する評価指標の推移

| 評価指標 | | 配点 | 事業着手時 評点(A) | 再評価時 評点(B) | 増減 (B)-(A) | 備考 |
|------|----------------------|-----|------------------|------------------|---------------|-----|
| 必要性 | 保全人家 | 10 | 8 (21戸) | 8 (21戸) | 0 | |
| | 保全公共施設等 | 10 | 10 (国道45号) | 10 (国道45号) | 0 | |
| 重要性 | 市町村地域防災計画の位置付け | 5 | 0 (なし) | 0 (なし) | 0 | |
| | 政策課題 | 5 | 0 (なし) | 0 (なし) | 0 | |
| 緊急性 | 溪床勾配 | 5 | 5 (19度) | 5 (19度) | 0 | |
| | 荒廃面積 | 5 | 5 (荒廃面積10.3%) | 5 (荒廃面積10.3%) | 0 | |
| | 堆積土砂厚 | 5 | 2 (平均1m) | 2 (平均1m) | 0 | |
| | 溪流の危険度 (過去の災害) | 15 | 0 (被害なし) | 0 (被害なし) | 0 | |
| | 溪流の整備状況 (現在の整備状況) | 10 | 10 (整備率0%) | 10 (整備率0%) | 0 | |
| 効率性 | 経済性 (費用便益比 B/C) | 20 | 20 (14.5) | 20 (8.3) | 0 | |
| | 早期効果度 (工事期間) | 10 | 10 (事業年数5年) | 5 (事業年数10年) | -5 | |
| 計 | | 100 | 70 | 65 | -5 | 93% |

○ 費用便益分析

費用便益分析手法:治水経済調査マニュアル(案)平成31年3月改正 (単位:百万円)

| 区 分 | | 事業着手時 (基準年:平成25年) | 再評価時 (基準年:令和元年) |
|------------|--------|----------------------|--------------------|
| 費用項目 | 建設費 | 94.1 | 180.0 |
| | 維持管理費 | 2.8 | 2.8 |
| | | | |
| | | | |
| | 総費用(C) | 96.9 | 182.8 |
| 便益項目 | 被害軽減 | 1,403.4 | 1,514.0 |
| | 残存価値 | 6.1 | 9.7 |
| | | | |
| | | | |
| | 総便益(B) | 1,409.5 | 1,523.7 |
| 費用便益比(B/C) | | 14.5 | 8.3 |

※費用便益分析において地域特性等考慮すべき特記事項
特になし

○ 関連する開発プロジェクト等の状況
特になし

○中項目評価は、各評価指標の評点の合計が事業着手時の90%以上であることから「a」とし

中項目評価 (a) . b . c

(3) 自然環境等の状況及び環境配慮事項

ア 動植物、地形・地質、歴史文化、景観等の状況及び岩手県自然環境保全指針による保全区分

- ・岩手県自然環境保全指針による保全区分 B
- ・希少野生動植物生息の有無 なし
- ・埋蔵文化財包蔵地の有無 なし
- ・その他特記事項

イ 環境配慮事項及び環境等への配慮に要する事業費

- ・振興局公共事業等に係る希少野生動植物調査検討委員会への付議状況 付議している

①主な助言内容

振興局で実施している公共事業等に係る希少野生動植物植物調査検討委員会に付議し、有識者等の助言を受けながら環境に配慮した事業計画の推進及び工事の施工を行うものとする。

②対応状況

切土や盛土については、植生による緑化を図る。

○自然環境保全指針の「優れた自然」の保全区分毎の保全方向に沿って積極的な対応をしていることから「a」とした。

中項目評価 (a) . b . c

○中項目評価が、「a」、「a」、「a」であることから、大項目評価は「AA」とした。

評 価 AA . A . B . C

コスト削減対策及び代替案立案の可能性

(1) コスト削減対策の実施状況及び今後の可能性

砂防堰堤の位置選定にあたり、単独及び複数基の砂防堰堤により土石流を処理できる配置及び規模を複数案比較し、最も経済的になるよう検討した。

(2) 代替案立案の可能性

①代替案として考えられる他の事業手法・工法の比較検討結果

砂防堰堤以外については、発生源における山腹工や砂留工等が考えられるが、溪床に不安定土砂が多く堆積しているため、対策として不十分なものとなったり、対策工に多くの費用を要したり、ランニングコストが高くなる工法とならざるを得ない。

また、保全対象施設の移転は不可能であり、砂防堰堤以外の代替案はない。

②今後における代替案立案の可能性

現時点で予想される現場条件の変化や新技術の確立等はないため、代替案立案の可能性はない。

(1) 総合評価

| | |
|-----------------|--|
| 総合評価 (対応方針案) | <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">事業継続</div> ・ <div style="text-align: center;">要 検 討</div> ・ <div style="text-align: center;">中 止</div> </div> <p>(事業継続、見直し継続、休止、中止)</p> |
|-----------------|--|

(事業名)通常砂防事業

| 着手年度 | 完了予定年度 | 事業費 (百万円) | 投資 事業費 (百万円) | 進捗率 (%) | | (1)事業進捗状況 | | | (2)社会経済情勢 | | | 参考 | |
|------|--------|--------------|--------------------|------------|----|-----------|------|----|-----------|------|------|----|-----|
| | | | | | | 進捗状況 | 計画変更 | | 社会経済 | 評価指標 | 自然環境 | 評点 | B/C |
| H26 | R5 | 189 | 31 | 16.4% | BB | b | b | AA | a | a | a | 65 | 8.3 |

○総合評価に係るコメント

①再評価の総括

「事業の進捗状況等」については、事業期間を5年延伸したが、「社会経済情勢等の変化」については、「事業に関する社会経済情勢」、「評価指標」、「自然環境等の状況」に関して特に大きな変化がみられないことから「事業継続」と評価したものである。

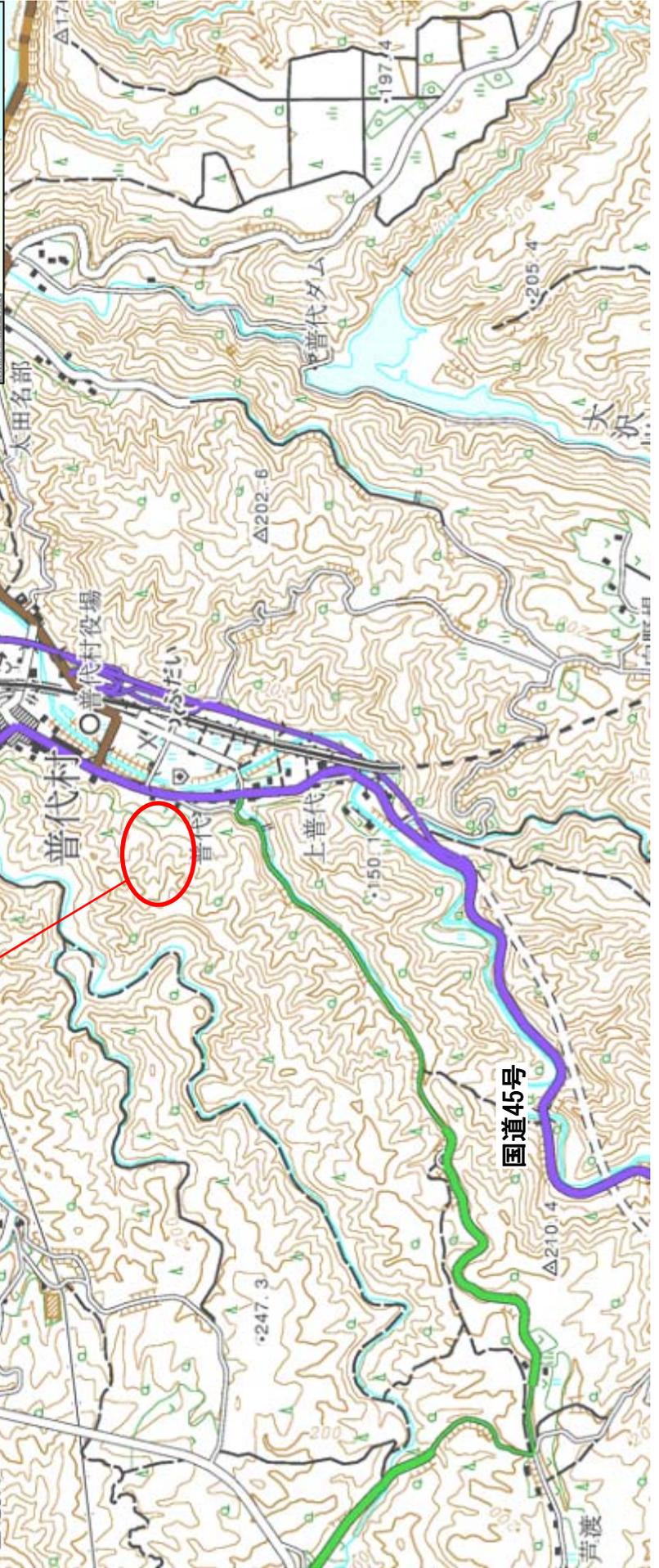
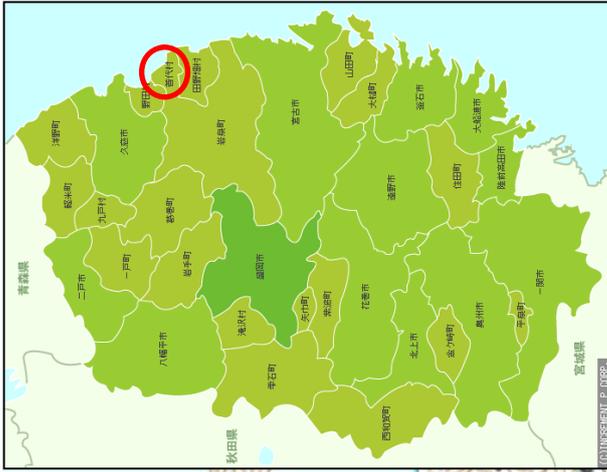
②特記事項

特になし

総合評価

(2) 要検討、中止の場合の対応

※評価対象事業の位置図、計画平面図、標準横断図等を添付のこと。



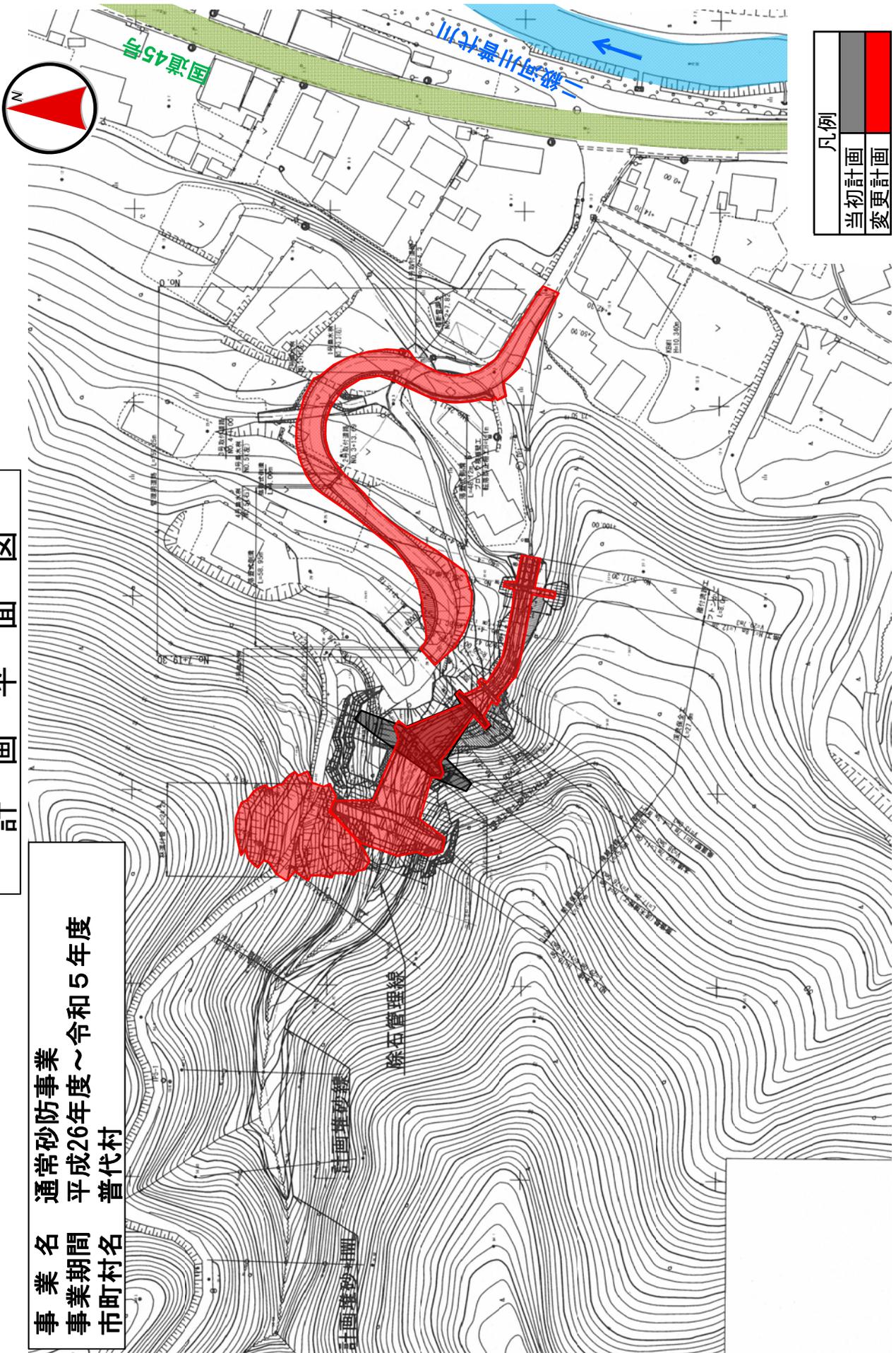
事業箇所図

事業名 通常砂防事業
 事業期間 平成26年度～令和5年度
 市町村名 普代村

事業箇所

計画平面図

事業名 通常砂防事業
 事業期間 平成26年度～令和5年度
 市町村名 普代村



公共事業 再評価調書

令和元年5月8日作成

| 事業名 | 総合流域防災事業（地すべり） | | 補助 | 単独 | 担当部課名 | 県土整備部砂防災害課 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|-----------------------------------|---------------------------------------|-----------------|--------------------------|------------------|--------------------------|-------|--------------|--|--|-----|--|--|-----|----|--------|-----|----|--------|------|-----|--------|------|-----|-------|
| 路線名等 | いっきゅう かせんたかみがわいけい 一級河川北上川水系 | 地区名 | はちまんたい 八幡平 | | 市町村 | はちまんたいし 八幡平市 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業概要 | 〔事業根拠法令等：地すべり等防止法第7条〕 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <p>(1) 事業目的</p> <p>○解決すべき課題 主要地方道大更八幡平線では、地すべりに起因する亀裂・陥没・隆起などが見られることから、地すべり対策施設を整備する必要がある。</p> <p>○整備によって得られる効果 対策工（集水井、集水ボーリング等）の整備により、県道を通行する車両等の安全を図る。</p> <p>(2) 事業内容 集水井6基、抑止杭工1箇所</p> <p>(3) 整備目標等 計画安全率1.15を確保する。 ※ 計画安全率 = 地盤の抵抗力 / 地すべりの滑動力</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 事業着手 | H22 | 事業計画期間 | H22 ~ R4 H26 | 再評価時全体計画期間 (当初全体計画期間) | 用地着手 | — | 工事着手 | H23 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 事業費 | 当初計画 総事業費 (H22年) (うち用地費) | 再評価時 総事業費 (R1年) A (うち用地費) | 事業費の状況 [百万円] | | | | | 進捗率 F=E/A | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | H22年~ B H29年 | H30年 C | R1年 D | 投資事業費 E=B+C+D | 財源 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 500.0 (-) | | 463.0 (-) | 292.8 (-) | 0.0 (-) | 50.0 (-) | 342.8 (-) | 国庫 171.4 県 171.4 他 | 74.0% | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業の進捗状況等 | (1) 事業の進捗状況 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <p>ア 整備効果の発現状況 集水井6基の完成によって、路面の亀裂、陥没、隆起等の発生頻度が減少しており、整備効果が発現している。</p> <p>イ 未着工及び工事遅延等の理由並びに解決の見通し ①理由：震災復興及び平成28年台風第10号災害復旧等を優先することによるもの。 ②解決の見通し：復興・復旧事業が着実に進捗したため、当該事業費の確保が可能である。 ③解決までの対応及び期間：現地に設置した地中伸縮計や地下水観測装置等により通年モニタリングを行い、地すべりの状態観測を行っている。 ○中項目評価は、完成年度を8年間延伸したが、事業期間内の竣工の見通しがあることから「b」とした。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <p>(2) 事業計画の変更の有無及び内容</p> <p>①変更内容 工事数量の変更（右表のとおり） 事業期間の延伸（8年間）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">変更前</th> <th colspan="3">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>集水井</td> <td>4基</td> <td>310百万円</td> <td>集水井</td> <td>6基</td> <td>318百万円</td> </tr> <tr> <td>抑止杭工</td> <td>2箇所</td> <td>150百万円</td> <td>抑止杭工</td> <td>1箇所</td> <td>72百万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>②「b」と判断した理由 ○中項目評価は、施工区間や主要な工事内容の変更がなく、大幅な変更はないことから「b」とした。</p> | | | | | | | | 変更前 | | | 変更後 | | | 集水井 | 4基 | 310百万円 | 集水井 | 6基 | 318百万円 | 抑止杭工 | 2箇所 | 150百万円 | 抑止杭工 | 1箇所 | 72百万円 |
| | 変更前 | | | 変更後 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 集水井 | 4基 | 310百万円 | 集水井 | 6基 | 318百万円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 抑止杭工 | 2箇所 | 150百万円 | 抑止杭工 | 1箇所 | 72百万円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>○中項目評価が、「b」、「b」であることから、大項目は「BB」とした。</p> <table border="1"> <tr> <td>評価</td> <td>AA・A・BB・B・C</td> </tr> </table> | | | | | | | | 評価 | AA・A・BB・B・C | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価 | AA・A・BB・B・C | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

(1) 事業に関する社会経済情勢

ア 全国の状況

平成23年3月11日の東日本大震災津波、平成26年8月の広島市を襲った前線による豪雨、平成27年9月の鬼怒川の氾濫を代表とする関東・東北豪雨、平成29年7月の九州北部豪雨、平成30年7月の西日本豪雨等に見られるように、自然災害によって尊い人命や家屋等の財産が甚大な被害を受けている。このようなことから、着実にハード整備を進めるとともに、土砂災害警戒区域等の指定や洪水・土砂災害ハザードマップの作成等ソフト対策の充実などにより、地域全体の防災意識の構築を図っていく。

イ 本県内の状況

平成28年8月の台風10号等より安家川、小本川（岩泉町）等の洪水など、各地で大規模な浸水、土石流、がけ崩れ被害が発生していることから、防災事業に対する関心が高まっており、効果的な事業の推進に努める必要がある。

土砂災害対策施設整備を着実に進めるとともに、土砂災害警戒区域等の指定、市町村による防災マップの策定及び公表など、ハード・ソフト対策を組み合わせた効果的な事業の推進に努めている。

ウ 施工地域における状況

当該箇所は八幡平アスピーテライン沿いの県内有数の観光地である八幡平国立公園内に位置し、これらの観光資源の有効活用に資するため、本事業を推進し地すべり対策を講ずることが必要である。

○中項目評価は、全国又は本県において、政策や事業のあり方についての議論や見直しの検討がないため「a」とした。

| | | | |
|-------|---|---|---|
| 中項目評価 | a | b | c |
|-------|---|---|---|

(2) 事業に関する評価指標の推移

| 評価指標 | | 配点 | 事業着手時 評 点 (A) | 再評価時 評 点 (B) | 増 減 (B)-(A) | 備 考 |
|------|----------------|-----|------------------|-----------------|----------------|-------------|
| 必要性 | 保全人家 | 10 | 0 (0戸) | 0 (0戸) | 0 | |
| | 保全公共施設等 | 10 | 10 (あり) | 10 (あり) | 0 | (主)大更八幡平線 |
| 重要性 | 市町村地域防災計画の位置付け | 5 | 5 (あり) | 5 (あり) | 0 | |
| | 政策課題 | 5 | 5 (あり) | 5 (あり) | 0 | 避難路(大更八幡平線) |
| 緊急性 | 地すべり地形 | 10 | 10 (明瞭) | 10 (明瞭) | 0 | |
| | 地すべり兆候 | 20 | 20 (異常・変状) | 20 (異常・変状) | 0 | |
| | 地形の危険度 | 10 | 5 (過去の履歴) | 5 (過去の履歴) | 0 | S46 |
| 効率性 | 経済性 | 20 | 10 2.1 | 10 1.7 | 0 | |
| | 早期効果度 | 10 | 10 (事業年数5年) | 0 (事業年数13年) | -10 | |
| 計 | | 100 | 75 | 65 | -10 | 87% |

○ 費用便益分析

費用便益分析手法:地すべり対策事業の費用便益分析マニュアル(案)平成24年3月 (単位:百万円)

| 区 分 | | 事業着手時 (基準年:平成21年) | 再評価時 (基準年:令和元年) |
|------------|--------|----------------------|--------------------|
| 費用項目 | 建設費 | 452 | 568.2 |
| | 維持管理費 | | 95.5 |
| | | | |
| | | | |
| | 総費用(C) | 452 | 663.7 |
| 便益項目 | 被害軽減 | 971 | 1,142.6 |
| | 残存価値 | | |
| | | | |
| | 総便益(B) | 971 | 1,142.6 |
| 費用便益比(B/C) | | 2.1 | 1.7 |

※費用便益分析において地域特性等考慮すべき特記事項
特になし

○ 関連する開発プロジェクト等の状況
特になし

○中項目評価は、各評価指標の評点の合計が事業着手時の80%以上90%未満であることから「b」とした。

| | |
|-------|------------------|
| 中項目評価 | a . b . c |
|-------|------------------|

社会
経済
情勢
等
の
変
化

(3) 自然環境等の状況及び環境配慮事項

ア 動植物、地形・地質、歴史文化、景観等の状況及び岩手県自然環境保全指針による保全区分

- ・岩手県自然環境保全指針による保全区分 **A**
- ・希少野生動植物生息の有無 **なし**
- ・埋蔵文化財包蔵地の有無 **なし**
- ・その他特記事項

イ 環境配慮事項及び環境等への配慮に要する事業費

- ・振興局公共事業等に係る希少野生動植物調査検討委員会への付議状況 付議している

①主な助言内容

特になし

②対応状況

本事業は、十和田八幡平国立公園内で実施していることから、作業ヤードや資機材配置等について自然環境や修景の妨げにならないよう配慮している。

また、事業実施に伴う立木伐採が最小限となるよう施工計画を立案し、事業を進めている。

《その他の環境配慮に要する事業費等》

○中項目評価は、自然環境保全指針の「優れた自然」の保全区分毎の保全区分に沿って積極的な対応をしていることから「a」とした。

| | |
|-------|------------------|
| 中項目評価 | a . b . c |
|-------|------------------|

○中項目評価が「a」「b」「a」であることから、大項目評価は「A」とした。

| | |
|-----|-----------------------|
| 評 価 | AA . A . B . C |
|-----|-----------------------|

コスト削減対策及び代替案立案の可能性

- (1) コスト削減対策の実施状況及び今後の可能性
 地すべり観測データにより対策施設の効果発現状況を把握し、事業計画（対策施設）の規模縮小を図られるか検討しながら事業を進めている。
- (2) 代替案立案の可能性
 ①代替案として考えられる他の事業手法・工法の比較検討結果
 代替案として県道の橋梁化が考えられるが、工法比較の結果、経済性に優れる本案（集水井＋抑止杭）が妥当であると判断した。
 ②今後における代替案立案の可能性
 集水井6基が完成しており、路面の亀裂、陥没、隆起等の発生頻度が減少しており、整備効果が発現しているため、現計画が妥当である。

総合評価

(1) 総合評価

| | | | |
|--------------------|---|-----|----|
| 総合評価 (対応方針案) | <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 40px; height: 40px; display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin: 0 auto;"> 事業継続 </div> | 要検討 | 中止 |
| (事業継続、見直し継続、休止、中止) | | | |

(事業名) 総合流域防災事業 (地すべり)

| 着手年度 | 完了予定年度 | 事業費 (百万円) | 投資 事業費 (百万円) | 進捗率 (%) | (1) 事業進捗状況 | | (2) 社会経済情勢 | | | 参考 | | | |
|------|--------|--------------|--------------------|------------|------------|------|------------|------|------|----|-----|----|-----|
| | | | | | 進捗状況 | 計画変更 | 社会経済 | 評価指標 | 自然環境 | 評点 | B/C | | |
| H22 | R4 | 463 | 342.8 | 74.0% | BB | b | b | A | a | b | a | 65 | 1.7 |

○総合評価に係るコメント

①再評価の総括

「事業の進捗状況等」については、事業期間を8年延伸したが、「社会経済情勢等の変化」については、「事業に関する社会経済情勢」、「評価指標」、「自然環境等の状況」に関して特に大きな変化が見られないことから「事業継続」と評価したものである。

②特記事項

特になし。

(2) 要検討、中止の場合の対応

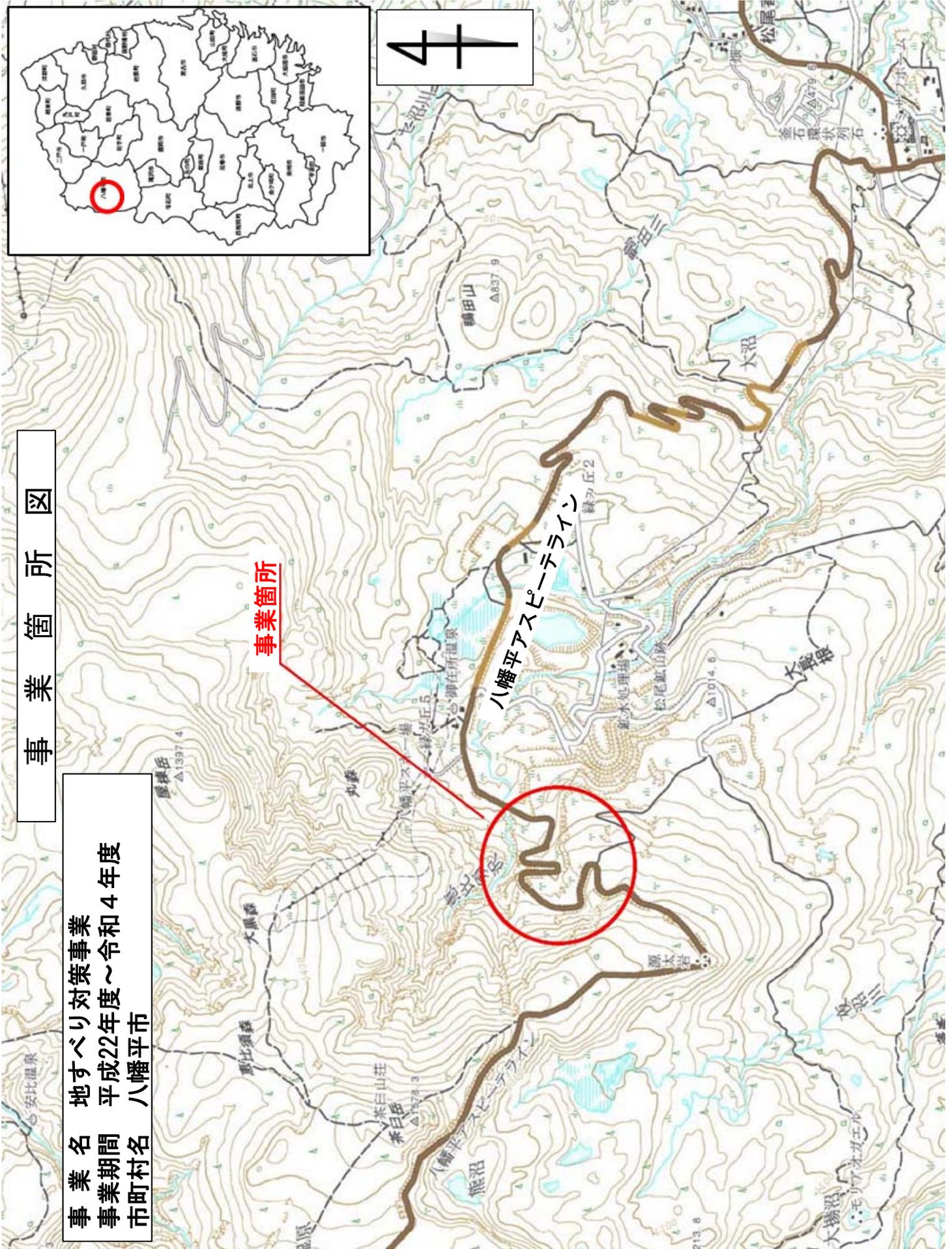
※評価対象事業の位置図、計画平面図、標準横断図等を添付のこと。

事業箇所図

事業名 地すべり対策事業
事業期間 平成22年度～令和4年度
市町村名 八幡平市

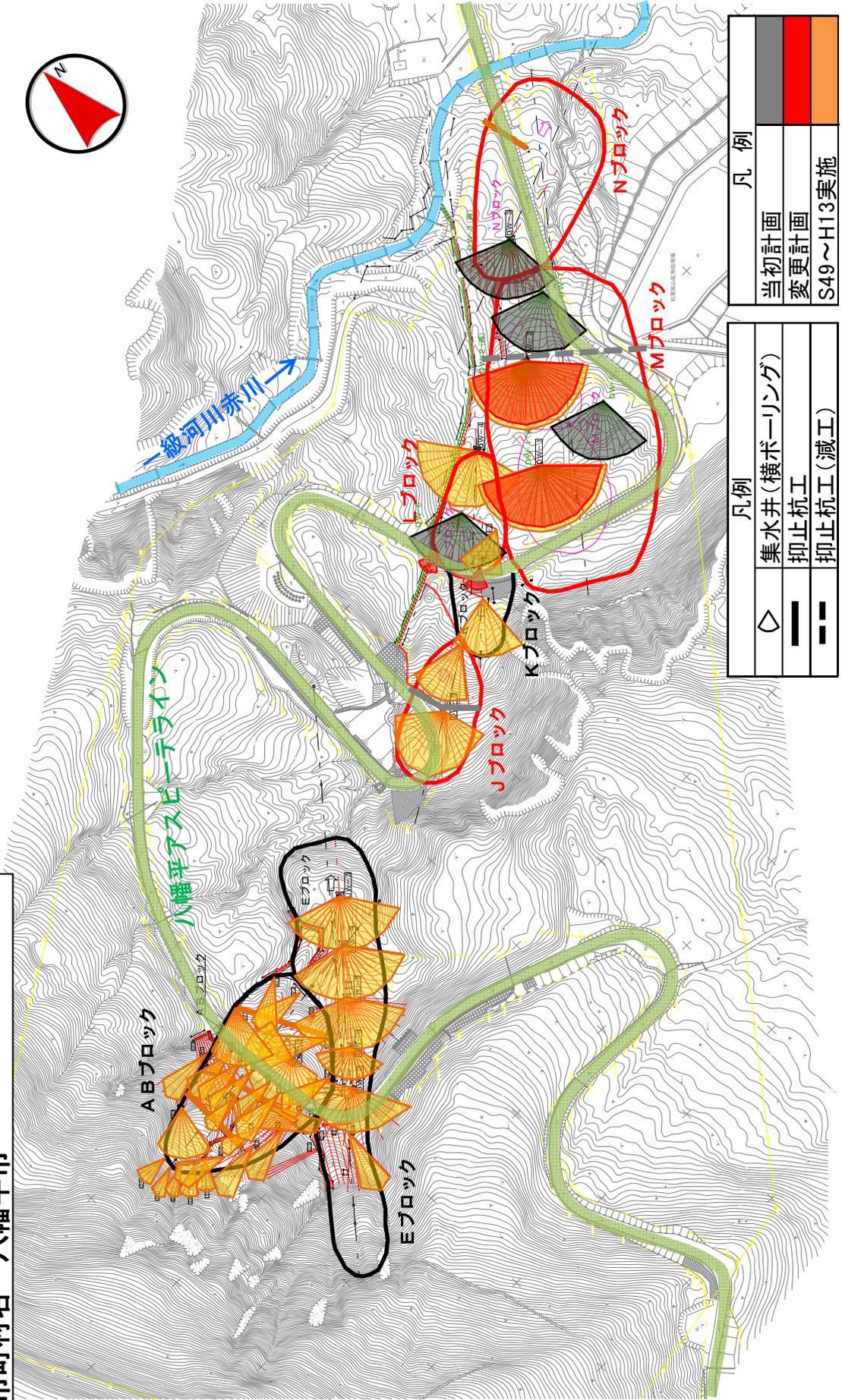
事業箇所

4



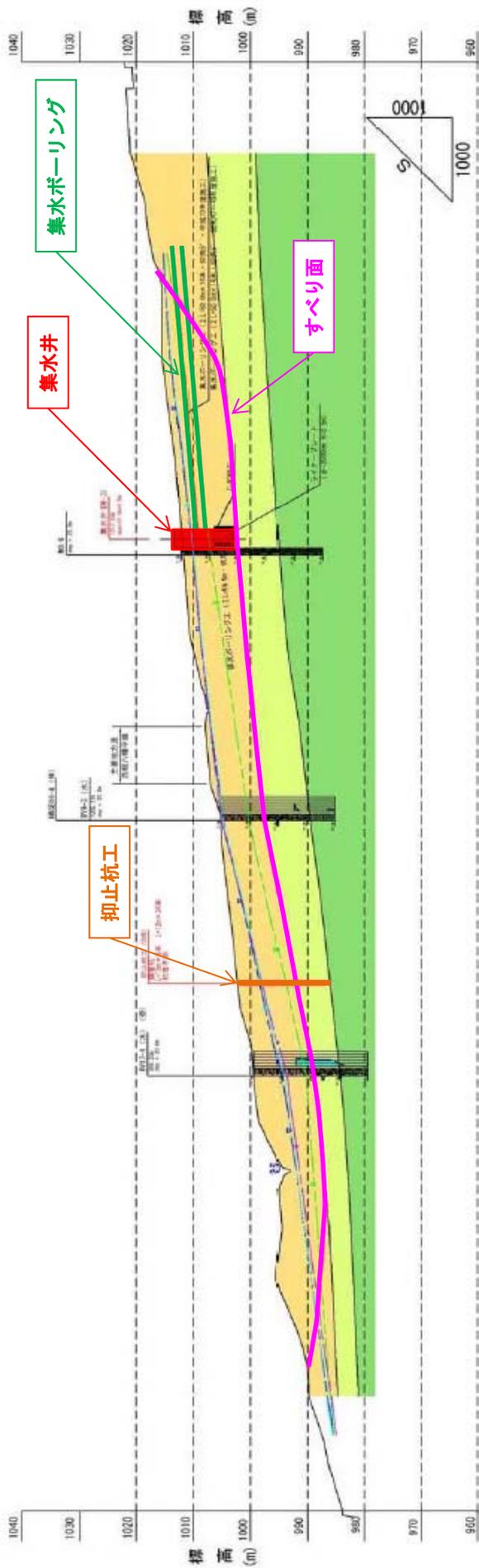
計画平面図

事業名 地すべり対策事業
 事業期間 平成22年度～令和4年度
 市町村名 八幡平市



計画横断面図 (Nブロック)

事業名 地すべり対策事業
事業期間 平成22年度～令和4年度
市町村名 八幡平市



公共事業 再評価調査

| | | | | | | | | | | |
|---|---|--------------------------|-------------------|----------------|--------------|--------------------------|------|-------------------|----------------------------------|--------------|
| 事業名 | 都市計画道路整備事業 | | 補助 | 単独 | 担当部課名 | 県土整備部都市計画課 | | | | |
| 路線名等 | 都市計画道路荒瀬上田面線 | 地区名 | いわやばし 岩谷橋 | | 市町村 | 二戸市 | | | | |
| 事業概要 | 〔事業根拠法令等：都市計画法59条〕 | | | | | | | | | |
| | <p>(1) 事業目的</p> <p>○解決すべき課題 本路線は、二戸市の地域防災計画に避難路として位置付けられた路線である。岩谷橋は昭和25年に架設されており老朽化が著しく、早急に架け替える必要がある。また、岩谷橋は車道幅員が6m、歩道幅員が1.5mと狭いことから、車両・歩行者とも安全な通行の確保が困難となっている。</p> <p>○整備によって得られる効果 老朽化した岩谷橋の架け替えに併せて道路整備を行うことにより、安全で快適な交通の確保と歩行者の安全な通行が図られる。</p> | | | | | | | | | |
| | <p>(2) 事業内容</p> <p>全体計画延長 L=224m 計画幅員 W=16~19m 橋梁整備 L=106m、改良舗装工事 L=118m</p> | | | | | | | | | |
| | <p>(3) 整備目標等</p> <p>市街地における幹線道路密度3.50km/km²（都市計画中央審議会中間答申） （平成30年度岩手県実績値：2.04km/km²）</p> | | | | | | | | | |
| 事業着手 | H22年度 | 事業計画期間 | H22 | ～ | R3 H29 | 再評価時全体計画期間 （当初全体計画期間） | 用地着手 | H25 | 工事着手 | H27 |
| 事業費 | 当初計画総事業費 （うち用地費） | 再評価時総事業費 A （うち用地費） | 事業費の状況 [百万円] | | | | | | | |
| | | | H22年～ B H29年 | C | H30年 | D | R1年 | 投資事業費 E=B+C+D | 財源 | 進捗率 F=E/A |
| | 1,500.0 (168.0) | 2,300.0 (49.7) | 1,244.2 (49.7) | 293.9 (0.0) | | 488.7 (0.0) | | 2,026.8 (49.7) | 国庫 1,174.5 県 722.3 他 130.0 | 88.1% |
| 事業の進捗状況等 | (1) 事業の進捗状況 | | | | | | | | | |
| | ア 整備効果の発現状況 現在、橋梁上部工を施行中であり、未供用であるため整備効果を発現していない。 | | | | | | | | | |
| | イ 未着工及び工事遅延等の理由並びに解決の見通し ①理由（阻害要因）：事業期間の延伸は、厳しい公共事業費の現状を踏まえ、工程の見直しが生じたことによる。 ②解決の見通し（難易度）：現在の進捗率が88.1%であるが、用地取得が全て完了済みであるため事業完了の見通しが立っている。 ③解決までの対応及び期間：残工事は改良及び舗装工事であるため、計画に沿った予算確保を図り、令和3年度までに事業完了する予定である。 | | | | | | | | | |
| | ○中項目評価は、完成予定年度が当初計画より遅れる見込みであるが、用地取得は全て完了済みであり、一定期間を要することにより竣工の見通しがあるものとして、「b」とした。 中項目評価 a . (b) . c | | | | | | | | | |
| (2) 事業計画の変更の有無及び内容 | | | | | | | | | | |
| ①変更内容 | | | | | | | | | | |
| 項目 | | 変更前 | | | 変更後 | | | | | |
| 総事業費 | | 1,500百万円 | | | 2,300百万円 | | | | | |
| 計画期間 | | 平成22年度～平成29年度 | | | 平成22年度～令和3年度 | | | | | |
| ②「b」と判断した理由 ○中項目評価は、変更の内容は施工区間や主要な工事内容の変更ではなく、事業期間に関する軽微な変更であり、大幅な変更ではないため「b」とした。 中項目評価 a . (b) . c | | | | | | | | | | |
| ○中項目評価が、「b」「b」であることから、大項目評価は「BB」とした。 | | | | | | | | | | |
| 評価 | | AA・A・(BB)・B・C | | | | | | | | |

(1) 事業に関する社会経済情勢

ア 全国の状況

・東日本大震災や熊本地震、九州北部豪雨等による「被災地の復旧・復興」、「国民の安全・安心の確保」、「生産性の向上と新需要の創出による成長力の強化」及び「豊かで活力ある地域づくり」の4分野に重点化し、施策効果の早期発現を図ることとしている。

イ 本県内の状況

・岩手県民計画では、快適で魅力あるまちをつくるため、都市計画道路などの都市基盤の整備や老朽化が進む施設の適切な維持管理を推進することとしている。
 ・また、岩手県道路事業実施計画では、交通渋滞の緩和、中心市街地の活性化、安全な歩行空間の確保などを図るための道路整備を進めていくこととしている。

ウ 施工地域における状況

・日常の買物や通学・通勤の歩行者・自転車の利用が多いにもかかわらず、幅員が狭隘で交差点部は変則五叉路であり、安全と円滑な交通が損なわれており、二戸市をはじめ三ノ丸町内会などから早急な整備が要望されている。

○中項目評価は、全国又は本県において、政策や事業のあり方について議論や見直しの大きな変化がみられないことから、「a」とした。

中項目評価 (a) . b . c

(2) 事業に関する評価指標の推移

| 評価指標 | | 配点 | 事業着手時 評点(A) | 再評価時 評点(B) | 増減 (B)-(A) | 備考 |
|------|------------------|-----|-------------------|-------------------|---------------|--------------------|
| 必要性 | 混雑度 | 3 | 3 混雑度1.01 | 0 混雑度0.53 | -3 | H27センス |
| | 歩行者交通量 | 3 | 3 242(人/12h) | 3 152人(人/12h) | 0 | H27センス |
| | 自転車交通量 | 3 | 0 107(台/12h) | 0 29(台/12h) | 0 | H27センス |
| | 歩道整備状況 | 5 | 5 未整備 | 5 未整備 | 0 | |
| | 前後区間の整備状況 | 6 | 0 未整備(橋梁部より南側) | 6 北側のみ整備済 | 6 | |
| 重要性 | 交通機能、防災機能 | 10 | 8 16m | 8 16m | 0 | |
| | 中心市街地活性化支援 | 5 | 5 商業 | 5 商業 | 0 | |
| | 公共交通支援 | 5 | 5 バス本数170(本/日) | 5 バス本数132(本/日) | 0 | |
| | 景観への配慮 | 5 | 0 電線地中化指定無し | 0 電線地中化指定無し | 0 | |
| | 地域課題等との関連 | 10 | 10 ・県北振興 ・合併支援 | 10 ・県北振興 ・合併支援 | 0 | |
| 緊急性 | 老朽橋、渋滞箇所、通行危険箇所等 | 10 | 10 老朽橋 | 10 老朽橋 | 0 | |
| 効率性 | 費用便益比(B/C) | 20 | 18 B/C=1.7 | 15 B/C=1.1 | -3 | |
| 熟度 | 地域の合意形成 | 15 | 10 (80%未満) | 15 (80%以上) | 5 | 大方の合意に至っている地域 |
| 計 | | 100 | 77 | 82 | 5 | (再評価時/採択時) 106% |

○ 費用便益分析

費用便益分析手法: 街路事業における費用便益分析マニュアル (平成12年6月)
費用便益分析マニュアル (平成30年2月)

(単位: 百万円)

| 区 分 | | 事業着手時 (基準年: H21年度) | 再評価時 (基準年: R1年度) |
|------------|----------|-----------------------|---------------------|
| 費用項目 | 事業費 | 1,235.0 | 2,334.1 |
| | 維持管理費 | 11.0 | 15.3 |
| | | | |
| | | | |
| | 総費用(C) | 1,246.0 | 2,349.4 |
| 便益項目 | 走行時間短縮便益 | 1,440.0 | 1,878.0 |
| | 走行経費減少便益 | 60.0 | 177.3 |
| | 交通事故減少便益 | 0.0 | 0.0 |
| | 歩行者便益 | 587.0 | 626.2 |
| | 総便益(B) | 2,087.0 | 2,681.5 |
| 費用便益比(B/C) | | 1.7 | 1.1 |

8,175台/日 (2030年) 6,017台/日 (2030年)

※費用便益分析において地域特性等考慮すべき特記事項

- ・平成16年度の公共事業評価委員会での提言を受け、以降歩行者便益を考慮している。

○各評価指標の評点の合計が、事業着手時の90%以上であることから中項目評価は「a」とした。

○ 関連する開発プロジェクト等の状況

- ・都市計画道路荒瀬上田面線船場工区 (平成24年度完成)
- ・新幹線二戸駅周辺地区土地区画整理事業 (平成8年度～令和6年度)

中項目評価 a . b . c

(3) 自然環境等の状況及び環境配慮事項

ア 動植物、地形・地質、歴史文化、景観等の状況及び岩手県自然環境保全指針による保全区分

- ・岩手県自然環境保全指針による保全区分 B
- ・希少野生動植物生息の有無 あり
- ・埋蔵文化財包蔵地の有無 あり
- ・その他特記事項

イ 環境配慮事項及び環境等への配慮に要する事業費

- ・振興局公共事業等に係る希少野生動植物調査検討委員会への付議状況 付議している

① 主な助言内容

- ・奥州街道の工事後の復元
- ・白鳥川河畔の岩壁の保存
- ・河畔林 (ケヤキ) の保存

② 対応状況

景観懇談会を実施しており、自然環境への影響を軽減するため、助言頂いた保存箇所については工事しないこと、また、奥州街道の復元については専門家等の意見を聞きながら、工事後に対応することとしている。

《その他の環境配慮に要する事業費等》
特になし

○中項目評価は、自然環境保全指針の「優れた自然」の保全区分毎の保全方向に沿った対応をしていることから「b」とした。

中項目評価 a . b . c

○中項目評価が「a」「a」「b」であることから、大項目評価は「A」とした。

評 価 AA . A . B . C

社会経済情報等の変化

| コスト削減対策及び代替案立案の可能性 | <p>(1) コスト削減対策の実施状況及び今後の可能性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 区画線材料の見直し 約 100千円 ・ アスファルト舗装の摩耗層の廃止 約 2,600千円 ・ 歩車道境界ブロック付側溝蓋の使用 約 1,400千円 <p style="text-align: right;">合計 約 4,100千円</p> <p>(2) 代替案立案の可能性</p> <p>①代替案として考えられる他の事業手法・工法の比較検討結果 当該路線は、二戸市の表玄関二戸駅と中心市街地とを連絡する幹線道路に位置付けられ、「都市の基盤的施設」として都市計画法に基づき都市計画決定されている。これ以外の案とした場合、当該地域は人家密集地となっており、地域に与える影響が非常に大きくなるとともに、事業コストが非常に高くなることから、現在の計画が適当である。</p> <p>②今後における代替案立案の可能性 現時点で予想される社会経済情勢、自然環境等の大きな変化はないため、代替案立案の可能性はない。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------|---|-----------------|---|------------|-----------|--------------------|---|-----------|------|------|--------|--------------|--------------------|------------|-----------|--|--|-----------|--|--|----|--|------|------|--|------|------|------|----|-----|-----|----|-------|---------|-------|----|---|---|---|---|---|---|----|
| | <p>(1) 総合評価</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; border: 1px solid black; padding: 5px;">総合評価 (対応方針案)</td> <td style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">事業継続</div> </td> <td style="width: 60%; text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">要検討</td> <td style="width: 20%; text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">中止</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center; padding: 5px;">(事業継続、見直し継続、休止、中止)</td> </tr> </table> </div> <p>(事業名)都市計画道路整備事業</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">着手年度</th> <th rowspan="2">完了予定年度</th> <th rowspan="2">事業費 (百万円)</th> <th rowspan="2">投資 事業費 (百万円)</th> <th rowspan="2">進捗率 (%)</th> <th colspan="3">(1)事業進捗状況</th> <th colspan="3">(2)社会経済情勢</th> <th colspan="2">参考</th> </tr> <tr> <th>進捗状況</th> <th>計画変更</th> <th></th> <th>社会経済</th> <th>評価指標</th> <th>自然環境</th> <th>評点</th> <th>B/C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H22</td> <td>R3</td> <td>2,300</td> <td>2,026.8</td> <td>88.1%</td> <td>BB</td> <td>b</td> <td>b</td> <td>A</td> <td>a</td> <td>a</td> <td>b</td> <td>82</td> <td>1.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>○総合評価に係るコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「事業の進捗状況等」については、用地は取得済みであり、令和3年度までに工事完了の見通しとなっている。 ・ 「社会経済情勢等の変化」については、事業に関する社会経済情勢、評価指標、自然環境等の状況に関して特に大きな変化は見られない状況である。 <p>(2) 要検討、中止の場合の対応</p> | 総合評価 (対応方針案) | <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">事業継続</div> | 要検討 | 中止 | (事業継続、見直し継続、休止、中止) | | | | 着手年度 | 完了予定年度 | 事業費 (百万円) | 投資 事業費 (百万円) | 進捗率 (%) | (1)事業進捗状況 | | | (2)社会経済情勢 | | | 参考 | | 進捗状況 | 計画変更 | | 社会経済 | 評価指標 | 自然環境 | 評点 | B/C | H22 | R3 | 2,300 | 2,026.8 | 88.1% | BB | b | b | A | a | a | b | 82 |
| 総合評価 (対応方針案) | <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">事業継続</div> | 要検討 | 中止 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (事業継続、見直し継続、休止、中止) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 着手年度 | 完了予定年度 | 事業費 (百万円) | 投資 事業費 (百万円) | 進捗率 (%) | (1)事業進捗状況 | | | (2)社会経済情勢 | | | 参考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 進捗状況 | 計画変更 | | 社会経済 | 評価指標 | 自然環境 | 評点 | B/C | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| H22 | R3 | 2,300 | 2,026.8 | 88.1% | BB | b | b | A | a | a | b | 82 | 1.1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 総合評価 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

※評価対象事業の位置図、計画平面図、標準横断図等を添付のこと。

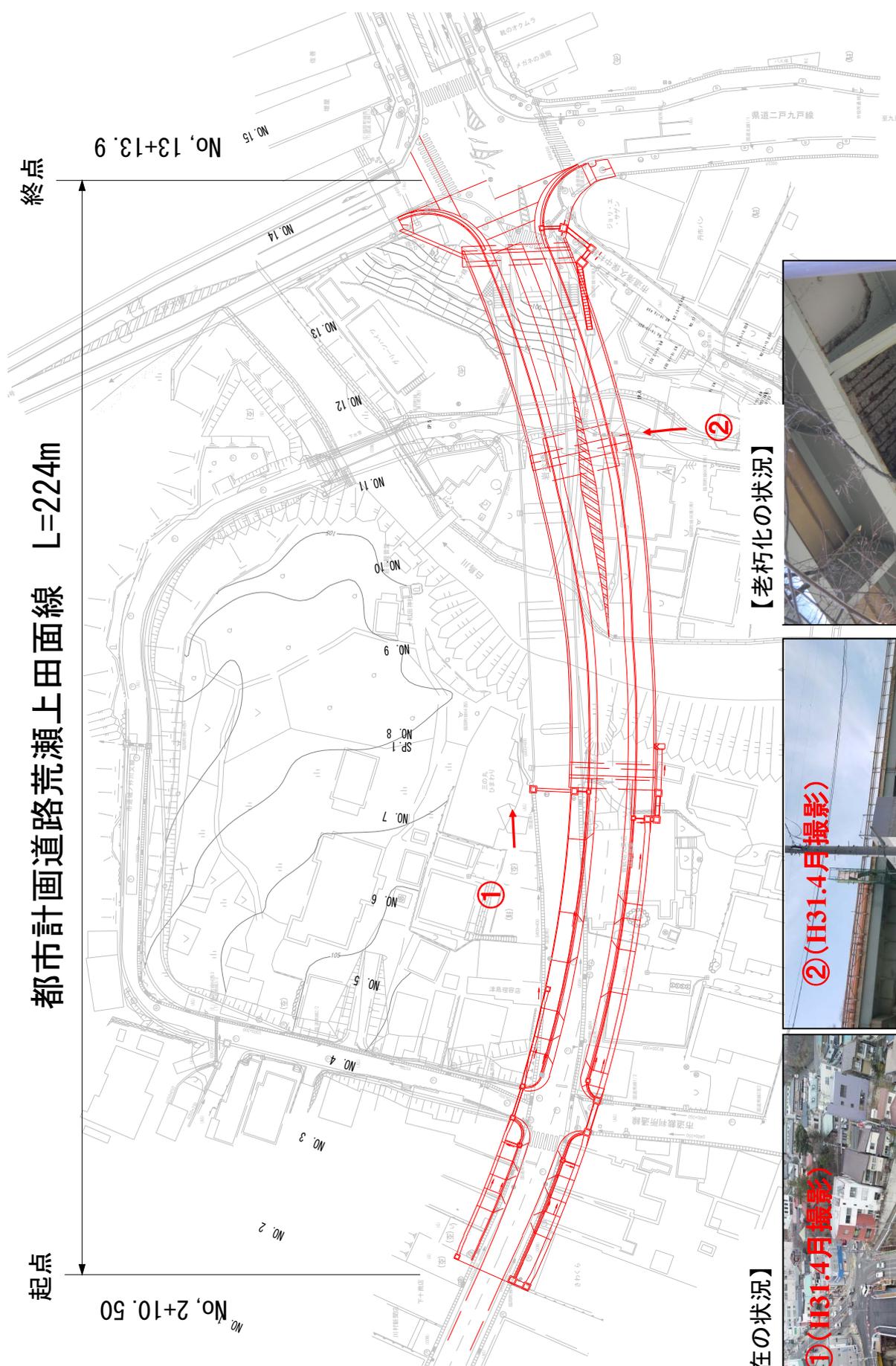
終点

都市計画道路荒瀬上田面線 L=224m

起点

No. 13+13.9

No. 2+10.50



【老朽化の状況】



② (H31.4月撮影)



【現在の状況】

① (H31.4月撮影)



令和元年度公共事業再評価専門委員会 現地調査行程表(案1)

○開催日: 令和元年7月8日(月) 9:15~17:05

○対象案件

- ・都市計画道路整備事業(都市計画道路荒瀬上田面線 二戸市)
- ・林道整備事業(森林管理道鷹ノ巣・鰻沢線 葛巻町)

○行程



◎時間は現時点での目安であり、交通状況等により変更になる場合があります。

令和元年度公共事業再評価専門委員会 現地調査行程表(案2)

○開催日: 令和元年7月8日(月) 9:15~17:35

○対象案件

- ・地域連携道路整備事業(一般県道大川松草線 岩泉町)
- ・林道整備事業(森林管理道鷹ノ巣・鰻沢線 葛巻町)

○行程



◎時間は現時点での目安であり、交通状況等により変更になる場合があります。